

「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業」

歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する調査研究

令和2年度成果報告書

一般社団法人 日本歯科医学教育学会

目次

令和2年度調査研究計画書	3
I. はじめに	6
II. 事業概要	7
1) 実施体制	7
2) 実施概要	7
3) スケジュール	9
III. 成果報告	10
1) 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査	10
2) 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う令和2年度の講義等の実施状況調査	55
3) 令和2年度歯科医師臨床研修 指導歯科医アンケート調査	237
4) 令和2年度歯科医師臨床研修 修了者アンケート調査	250
5) 感染症教育に関する調査	269
IV. 終わりに	271
V. 資料	274
1. 令和2年度歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査票	274
2. 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う令和2年度の講義等の実施状況調査票	284
3. 令和2年度歯科医師臨床指導者調査票	301
4. 令和2年度歯科医師臨床研修修了者調査票	308

令和2年度調査研究計画書

I 委託業務の内容

1. 業務題目

歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究

2. 業務の目的

平成 28 年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムの内容は、国家試験出題基準、臨床研修到達目標との整合性を取りながら、改訂が行われた。今回、医学教育、歯学教育、薬学教育のモデル・コア・カリキュラムの同時改訂を予定していることから、三者の課題を明確にし、地域包括ケアシステムの中で、患者中心の医療を促進するために、三者の共通の学習目標を設定し、さらに多職種協働を推進する医療人養成の視点に立った歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂素案を作成することである。

3. 業務の期間

令和 2 年 12 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

4. 当該年度における業務実施計画

令和2年度

・歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂の教育効果の検証

現行の歯学教育モデル・コア・カリキュラムの効果と課題の検証を各大学に調査対象者50名(雇用者、学習者)の選出を依頼し、これからの歯科医師養成における課題を抽出し、ニーズ分析を行う。また、実施する場合に生じる制限(教育環境、予算、人的資源など)を検討する。

・新型コロナ禍前後での歯学教育モデル・コア・カリキュラムの実施状況、臨床実習の実施状況、代替実習についてのアンケート調査

新型コロナ禍以前の歯学教育モデル・コア・カリキュラムの実施状況およびその実施方法、評価方法、課題と同時に、COVID-19への対応として、どのような方略・方法・手段による講義、実習を行っているか。また、臨床実習の実施状況と代替実習の状況、その効果、課題についての調査を行う。アンケート調査項目は、医科・薬学のアンケート項目を参考にして共通性のある項目を含めた内容で調査を行う。

令和3年度

- ・海外の歯学部のカリキュラムやGeneral dentistの臨床研修プログラムの調査
Association for Dental Education in Europe (ADEE)とAmerican Dental Education Association (ADEA)の学会に参加するとともに、イギリス、ドイツ、フィンランド、アメリカの大学を視察し、情報を収集する。
- ・平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムの対する海外の評価
ADEEとADEAの学会に評価を依頼し、国際的評価を得る。
- ・歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案および診療参加型臨床実習のためのガイドラインの改訂素案の作成
医学、薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂作業チームと意見交換を行いながら、我が国の臨床研修の到達目標、歯科医師国家試験出題基準との整合性を考えて、改訂素案を検討し、歯科医学教育学会の代議員、関連学会から広く意見を聴取し、その意見を参考に改訂素案の作成を進める。

令和4年度

- ・歯学教育モデル・コア・カリキュラムのパブリックコメントに基づく改訂素案の修正
関連学会、本学会会員からのパブリックコメントを参考に改訂素案の修正を行う。修正素案は、関連学会の教育関連委員会に最終確認を依頼し、改訂素案の総体的合意を得る。
- ・歯科医学モデル・コア・カリキュラムの改訂素案の日本語版・英語版の作成と配布および周知
2023年開催の第42回日本歯科医学教育学会学術大会において医科・歯科・薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂の目的、改定素案の目指す方向、共通項目等について各教育の代表によるシンポジウムを開催し、意見を招請する。また、文部科学省主催の医学・歯学教育指導者のためのワークショップでも同様に意見を伺い、改訂素案の修正の参考にする。改訂素案が決定した後、英語版の作成を行う

5. 業務実施体制

課題項目	実施場所	業務担当責任者
歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究	東京都豊島区駒込 1-43-9 一般社団法人口腔保健協会内	河野 文昭

6. 課題項目別実施期間 ●—● は、実施期間を示す

業務項目	実施期間(2020年12月1日～2021年3月31日)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂の教育効果の検証										●—●		
											●—●	
												●—●
コロナ禍前後での歯学教育モデル・コア・カリキュラムの実施状況、臨床実習の実施状況、代替実習についての調査										●—●		
											●—●	
												●—●
												●—●

I. はじめに

超高齢社会を向かえ、住み慣れた地域での継続的な生活を可能とする地域包括ケアシステムの構築が進む中、国民の健康寿命の延伸に対する医療・介護への期待が高まり、歯科医学を取り巻く環境は大きく変化している。このような中、平成 20 年に文部科学省に「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」(以下協力者会議)が設置され、歯学教育モデル・コア・カリキュラム(以下、コアカリ)の恒常的改訂の必要性が提言され、平成 22 年度、平成 28 年度の二度にわたりコアカリの改訂が行われた。

現在、全国の自治体で少子高齢者社会に対応した地域包括ケアシステムの構築が進められている中、口腔機能の改善、維持は、健康寿命の延伸に重要であることが認知され、歯科医師の社会的な役割は広がりつつある。

コアカリは、国際的に共通する歯科医師養成の教育水準達成に不可欠な学修目標を示すものであり、全国 29 歯科大学・歯学部において、歯学教育の全体の概ね 60%がコアカリに準拠した教育が実施されている。しかし、日進月歩の医学・歯科医学への対応、国民の医学・歯科医学への期待の変化に対応するために、歯科医学の専門教育においても医学、薬学、看護学、福祉分野との連携を取りながら、継続的なコアカリ改訂を実施しなければならない。

そこで本事業では、コアカリの改訂に向けて、全国歯科大学・歯学部のコアカリ実施の現状分析を行うとともに、海外動向などの調査研究を実施することで、コアカリ改訂素案作成のための資料を収集し、改訂素案を作成する。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延のために、歯学教育の停滞や教育方略の見直しなど外的要因に対して対応せざるを得なかった。

そのため、本年度は、歯学教育の現況とコロナ禍での教育方略についての調査を行うとともに、コアカリの教育効果の検証調査を、臨床研修指導歯科医と大学卒業直後の研修歯科医を対象に行った。

Ⅱ. 事業概要

1) 実施体制

本事業では、12名の委員からなる「調査研究チーム」ならびに調査研究チーム内で構成する委員からなる、「カリキュラム評価」、「コロナ禍での教育方略調査」、「学修者評価＋指導歯科医評価」、「感染症教育」の4つのワーキングを設置し、メール会議を実施することで作業を進めた(表1、表2)。

2) 実施内容の概要

カリキュラム評価WGでは、全国の歯科大学・歯学部でのコアカリ実施の現状調査のアンケートの作成と分析を担当し、コロナ禍での教育方略調査WGでは、コロナ禍でのコアカリの教育方略の対応と代替実習方法の調査のためのアンケート作成と分析を行った。また、学修者評価＋指導歯科医評価WGは、臨床研修指導歯科医を対象としたコアカリ改訂による教育効果の第三者評価を、また、令和2年度研修歯科医を対象とした学修者の卒業時の学修成果とそのコアカリ改訂による新規項目の必要性についての調査、分析を行った。感染症教育WGでは、医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂調査研究チームが主催する感染症講演会から情報収集を行い、どのような項目が歯学教育の感染症教育に必要なかを検討する基礎資料を得た。

表1 歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する「調査研究チーム」

氏名	所属	専門領域
上田 貴之	東京歯科大学	歯科補綴学、老年歯科学
岡田 明子	日本大学歯学部	口腔診断学 歯科麻酔学
○河野 文昭	徳島大学	歯科補綴学 総合歯科学
神田 拓	広島大学	口腔外科学
斎藤 隆史	北海道医療大学	歯科保存学
關 奈央子	東京医科歯科大学	教育・国際
田口 則宏	鹿児島大学	歯学教育 総合歯科学 歯科補綴学
田村 文誉	日本歯科大学	衛生、摂食・嚥下 地域連携
照沼 美穂	新潟大学	口腔生化学

長谷川 篤司	昭和大学	歯科保存学 総合歯科学
平田 創一郎	東京歯科大学	社会歯科学
森田 学	岡山大学	予防歯科学・感染対策

計12名 ○座長

協力者

氏名	所属	専門領域
石田 達樹	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構	
林 誠	文部科学省高等教育局医学教育課 技術参与	歯科保存学
高橋 礼奈	文部科学省高等教育局医学教育課 技術参与	歯科保存学

表2 調査研究WG

WG	メンバー
カリキュラム評価 WG	○田口則宏、照沼美穂、上田貴之、關 奈央子、 森田 学、林 誠
コロナ禍での教育方略調査 WG	○平田創一郎、神田 拓、斎藤隆史、岡田明子、 林 誠
学習者評価＋指導歯科医の評価 WG	○長谷川篤司、田村文誉、河野文昭、石田達樹、 高橋礼奈
感染症教育 WG	○森田 学、岡田明子

○は、WG委員長、順不同

3)スケジュール

	内容	議題	
2020/10/26		研究調査チームの候補者について 医学教育課と今後の方針についての意見交換	
2020/11/6	医学・医学教育課との話し合い		
2020/11/11	歯学・医学教育課との話し合い	調査チームについて 各種アンケート素案についての意見交換	
2020/11/13	学会理事会で報告	進捗状況の説明、学会内に「歯学教育コア・カリキュラム改訂の委員会とWGの設置	
2020/11/20		調査チーム確定	
2020/11/27	各種アンケート素案確定		
2020/12/7	第1回調査チーム会議	役割分担	
2021/1/18	第2回調査チーム会議	アンケート項目の決定 コアカリ改訂のためのWG(案)	
2021/3/9	第3回調査チーム会議	医・歯 共通部分の改訂方針の検討 R3年度の業務計画書(案)の確認 R2報告書目次(案)の提示 次年度WG活動スケジュール	
2021/3/1	R2報告書(案)提出		
2021/3/5	R3業務計画書提出		
2021/3/19	第4回調査チーム会議	R2報告書(最終版)確定	
2021/3/26	R2報告書(最終版)提出		

Ⅲ. 成果報告

1) 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの現状における調査

【調査の概要】

本調査は、全国の歯科大学・歯学部を対象に、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム 平成 28 年度改訂版」(以下、平成 28 年度改訂版コアカリ)の運用状況や現時点での教育実態および今後の教育改革に対する意見を収集し、次期コアカリ改訂の際の基礎資料にするとともに、新たな歯学教育に反映するために実施した。

➤ 回答対象の時期および調査時期

令和 2 年 12 月現在の情報について、令和 3 年 2 月に調査を行った。

➤ 調査対象

全国 29 歯科大学・歯学部

➤ 調査方法

記名式質問紙調査法。エクセルファイルをメールにて各施設へ送信し、回答を依頼した。

➤ 調査内容

1. カリキュラム全般
2. 一般(教養)教育への影響
3. 平成 28 年度改訂版コアカリ導入による教育内容及び方略への影響
4. 臨床実習導入科目(シミュレーション教育など)への影響
5. 診療参加型臨床実習への影響
6. 学生の国際交流への影響
7. 学生の学修評価への影響
8. 授業評価方法等への影響

➤ 回答率

29 歯科大学・歯学部中、全 29 施設より回答が得られた。(回答率:100%)

➤ 調査から得られた結果と提言

1)カリキュラム全般

29 歯科大学・歯学部(以下「施設」と略す)中、26 施設が平成 28 年度改訂版コアカリ導入後に何らかのカリキュラム改革を行っていた。その内容は個々の科目の追加・廃止、配置(開講時期や授業時間)の変更、教育内容の修正等であった。新たに追加された科目は基礎歯科学、臨床歯科学、社会歯科学、先端的研究分野や PBL、シミュレーション実習など様々であることがわかった。これらのカリキュラム改革を担当する組織はすべての施設に設置されており、委員会、部会、ワーキンググループからセンターレベルなど

様々な規模で対応されていた。その組織の構成員はほぼ全ての施設で教授が含まれており、中には副学長、学部長、副学部長など組織の幹部を配置している施設も見られ、その規模は数名程度から 40 名程度まで様々であった。

学修成果(コンピテンシー)は 29 施設中 25 施設で定められており、1 大学を除くすべての施設で平成 28 年度のコアカリ改訂後にシラバスの記載内容の修正が行われていた。また、平成 28 年度改訂版コアカリのすべての学修項目がシラバスに反映されているかの確認は、一部の施設では行われていないことも明らかとなった。

コアカリと大学独自のカリキュラムとの割合については、平成 28 年度改訂版コアカリでは各大学の特色ある独自のカリキュラムは学修時間数の 4 割程度と示されているものの、各施設における現状は多様であり、大学独自のカリキュラムが 1 割と回答した施設もある一方、8 割と回答した施設もあったが、4 割と回答した施設が 13 施設、3 割と回答した施設が 7 施設と多かった。一方で、望ましいと考えられる割合については、3 割と 4 割と回答した施設が合計 24 施設にのぼっていた。

授業時間配分については、平成 28 年度改訂版コアカリ導入後に学期区分を変更した施設が 3 施設、1 回の授業時間を変更した施設が 3 施設と、全体からすると大きな変更は見られなかった。一方で一般(教養)教育の単位数や授業時間数は 6 大学で変更が認められ、専門教育の単位数や授業時間数の変更は 13 施設で認められた。

平成 28 年度改訂版コアカリ改訂以前のカリキュラム改訂は平成 23 年度と回答した施設が 7 施設と最も多く、次いで平成 27 年度の 6 施設であった。当時の改訂のねらいについては「コアカリ改訂に対応するため」といったものから社会や各施設独自のニーズへの対応といったものまで様々であった。

今後のカリキュラム改訂の予定については「ある」と回答した施設が 12 施設である一方、「ない」と回答した施設が 8 施設、「未定」との回答が 9 施設であった。改訂の理由については、「コアカリ改訂に対応するため」、「令和 3 年の歯科医師法改正に対応するため」といったものから「アウトカム基盤型カリキュラムへの移行」、「(総合大学における)全学的な方針への対応」、「新型感染症対応などをはじめとする社会的なニーズ対応する」ものなどが多い傾向であった。

提言

コアカリの内容は社会や時代の要請に従って構築されるものであり、各施設のカリキュラムの中に適切に反映されるべきである。一部の大学において平成 28 年度改訂版コアカリ導入後に部分的にもカリキュラム改革が行われなかったのは問題として認識されるべきである。また一部の施設では平成 28 年度改訂版コアカリのすべての学修項目がシラバスに反映されているかの確認が行われていないことも明らかとなり、周知の方法も含め検討が必要であると考えられる。

大学独自のカリキュラムとコアカリの割合については、4:6 ないしは 3:7 が望ましいと回答した施設が 8 割以上であり、バランスに対する共通認識はほぼ得られていると考えられる。授業時間配分については、特に専門教育における変更が多かった。また、今後のカリキュラム改革の予定については、やや意見が分かれる形となった。昨今の新型感染症の拡大に伴い、カリキュラム改革も柔軟に対応していく必要がある。特に遠隔授業をはじめとする新たな教育方略の浸透により、授業の在り方も大きく様変わりしていくことが予想される。授業時間等の量的な側面のみならず、教育の内容や質にも注視しながら、今後を見据えた形での変更を行っていくことが求められる。コアカリとしては、新たな時代の歯学教育の根幹を構築すべく、多面的かつ中長期的な視点に立った枠組みの構築が求められる。

2) 一般(教養)教育への影響

平成 28 年度改訂版コアカリ導入後に何らかのカリキュラム改訂を行った施設は 14 施設であり、残りの約半数の施設では改訂が行われていなかった。また改訂された内容は「科目内の教育内容の変更」が 8 施設と最も多く、次いで科目の配置変更、科目の追加・廃止であった。平成 28 年度改訂版コアカリ導入後に教育内容に変化があったと回答した施設は 11 施設にとどまり、その内容は「コアカリ改訂に沿った内容の変更」が最も多く、「教養的科目の充実」、「多職種連携の強化」などが見られた。授業実施形態については「歯学部・歯学科単独での実施」と回答した施設が 17 施設で最も多く、次いで「他学部・他学科の学生と一部が一緒」との回答が 10 施設であった。一般(教養)教育と専門教育の関係については 21 施設で「変更なし」と回答され、変更があった場合の内容は開講時期や開講期間、授業時間数、担当教員の変更などであった。今後の一般(教養)教育カリキュラム改革の予定については 9 施設が「ある」と回答し、今回のコアカリ改訂に合わせて改革を行うという意見が見られた。

提言

コアカリは学士課程教育すべてで網羅されるべき教育内容が記載されており、一般(教養)教育に関わる部分も多い。今回の調査では過半数の施設が一般(教養)教育カリキュラム改革を行っていないと回答しており、また教育内容に変化があったと回答した施設も半数以下であり、十分な対応がなされていない可能性がある。コアカリ改訂の周知方法も含め検討が必要であると考えられる。

単科大学の場合はもとより、総合大学の場合、一般(教養)教育は全学的に実施される場合もあるが、各学部で求められる教育内容や質は担保される必要がある。今後新たなコアカリを構築していく上で、各大学が有する教育資源へどこまで配慮できるかは検討が必要であると考えられる。

3) 平成 28 年度改訂版コアカリ導入による教育内容及び方略への影響

平成 28 年度改訂版コアカリ導入により「新規に追加・実施した」教育内容は、地域医療教育とキャリア教育が最も多く各 4 施設、次いで行動科学・人間関係学、臨床実習開始前、臨床実習中の学外施設実習、多職種連携教育が 3 施設であった。「もともと実施されていたが内容が変化した」教育内容は高齢者医療・在宅ケア・介護が最も多く 12 施設、次いで多職種連携教育が 11 施設、国家試験対策教育が 10 施設、早期体験実習、医療プロフェッショナリズム教育が 9 施設であった。一方、「もともと存在せず追加・実施も行っていない」教育内容として、臨床実習中の国外施設での実習が 17 施設で、また英語による歯学・医学・専門教育が 15 施設で、臨床実習開始前の学外医療施設(歯科診療所等)での実習が 10 施設で未対応となっていた。

方略としては、平成 28 年度改訂版コアカリ導入により「新規に追加・実施した」方略として学修管理システムを用いた遠隔授業が 6 施設と最も多く、「もともと実施されていたが内容が変化した」方略としては統合型カリキュラムが 8 施設と最も多く、ついでアクティブ・ラーニングが 6 施設であった。一方、「もともと存在せず追加・実施も行っていない」方略としては DDS-PhD コース(大学院教育の早期開始)が 20 施設であった。

提言

平成 28 年度改訂版コアカリ改訂のキャッチフレーズは「多様なニーズに対応できる歯科医師の養成」であり、各施設において多様なニーズをふまえた様々な教育内容および教育方略の見直しが行われてきた。「もともと実施されており変化はない」と回答された教育内容が多いものの、「もともと存在せず追加・実施も行っていない」教育内容も散見されており、各施設における適切な対応が求められる一方で、各施設にお

ける様々な制約により、すべての項目に対応することへの限界もあると考えられる。今後新たなコアカリを構築していく上では、各施設が有する物的・人的資源等にも一定程度の配慮が求められると考えられる。

4) 臨床実習導入科目(シミュレーション教育など)への影響

臨床実習導入科目を開講している施設は 24 施設であり、その内容は登院前実習から講義・演習、相互実習、模型・シミュレータを用いた実習、見学実習など様々であった。またその時期は大学入学当初から臨床実習開始直前まで多様であったが、多くは臨床実習開始直前に実施されている傾向であった。平成 28 年度改訂版コアカリ導入により具体的な教育方法や教育内容に変化があったと回答したのは 8 施設にとどまっていた。変化した内容としては、コアカリの内容に沿った改訂等であった。

模擬患者(Simulated Patient: SP)の活用状況については、「医療面接」教育に教員や学生以外の SP が参加していると回答した施設が 18 施設、その確保状況は外部委託、学内養成ともに 12 施設となっていた。「医療面接」教育以外での SP の参加状況は、24 施設において「参加していない」との回答であった。

提言

臨床実習導入科目に関しては、診療参加型臨床実習を実質化していく上で極めて重要な位置づけの科目群であると考えられる。複数の施設では大学入学当初より早期体験実習を実施するなどの対応が取られているとともに、大半の施設では臨床実習開始直前に臨床実習導入科目が開講されていた。一方で、臨床実習導入科目を開講していないと回答した施設も 5 施設あり、診療参加型臨床実習の円滑な移行への取り組みが期待される。なお平成 28 年度のコアカリ改訂の影響は、教育方法や教育内容の変化があったのが 8 施設のみであり、診療参加型臨床実習を実質化していくうえで十分な対応が取られているのか確認が必要と考えられる。

5) 診療参加型臨床実習への影響

診療参加型臨床実習は「導入していない」という施設は存在せず、全ての施設で導入されていた。実習開始の時期は若干の幅はあるものの 5 年生の前期開始、後期開始の大きく二つに分類され、終了の時期は 5 年生の後期から 6 年生の後期まで広く分布していた。また実習期間は平均約 13 か月であり、12 か月と回答した施設が 12 施設と最も多かった。「臨床実習の内容と分類」はすべての施設で活用されており、また「歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン」についても 1 施設を除きすべての施設で活用されていた。

「医療安全」および「感染対策」に関する教育は、全ての施設において診療参加型臨床実習内で実施されていたが、「プロフェッショナリズム」に関する教育は 6 施設で「行っているが十分とは言えない」、1 施設で「行っていない」との回答であった。

診療参加型臨床実習における実習指導教員となるための資格については 19 施設で定められており、臨床経験年数および助教以上などの「教員」の身分で規定されているケースが多い傾向であった。診療参加型臨床実習における実習指導教員への FD の実施については、19 施設で実施されており、その内容は医療安全、感染対策、コンプライアンスなどとともに、共用試験の Post-CC PX などの評価法、指導法など様々であった。

診療参加型臨床実習指導における「働き方改革」の影響については、「及ぼしていない」との回答は 7 施設にとどまり、多くの施設では何らかの影響を及ぼしていることが認められた。教育の質を担保しつつ、教

職員や施設の負担軽減のための方策が必要であることが示唆された。

コロナ禍になる以前から抱えている診療参加型臨床実習実施上の問題点として、「患者数(診療ケース数)の問題」を指摘したのが22施設と最も多く、次いで「ハード面や教育環境の問題」、「指導者の問題」を挙げたのがそれぞれ19施設であった。

提言

各施設からの回答としては、全ての施設で「診療参加型臨床実習を実施している」との結果であったが、実質的な実施状況に関しては本調査では明らかとなっていない。「臨床実習の内容と分類」および「歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン」はすべての施設で活用されており、その内容は浸透していると推察される。新たな見直しにおいては、新たなニーズにマッチした内容に改訂することが求められる。

診療参加型臨床実習における実習指導教員となるための資格については、施設によって基準がまちまちであり、単に「助教以上」であればよい、という施設も見られた。また指導教員に対するFDの内容もかなりのばらつき認められた。歯科医師臨床研修制度では指導歯科医になるためには、指導歯科医講習会の受講が必修化されており、令和3年度以降には指導歯科医資格も更新制となる予定である。卒前から卒後にわたる歯学教育のシームレス化を考慮すると、診療参加型臨床実習における実習指導教員の資格にも一定程度の基準を設けることを検討する必要がある。

診療参加型臨床実習実施上の問題点としては、「患者数(診療ケース数)」が最も多く指摘された。すべての臨床実習生が必要な症例を経験することは最低限であると考えられるが、同一の処置内容を繰り返し経験し臨床技能の習熟を図るべきかについては、各施設や附属病院等の特性、地域の実態等も考慮せねばならず議論の余地があると考えられる。

6) 学生の国際交流への影響

国際交流を行っていると回答した施設は、1施設を除き全施設であり、その内容は27施設が「海外からの学生の受け入れ」、25施設が「学生の海外への派遣」であった。平成28年度改訂版コアカリ導入による学生の国際交流の変化については、交流大学や交流件数の増加、新規授業科目の開講などであった。「学生の海外への派遣」のタイミングについては、「基礎・臨床医学で参加する機会がある」のが19施設となっていた。このような国際交流を推進するプログラム名は各施設で様々であり、授業科目(実習、演習)としての位置づけから短期留学制度といった希望者対象のプログラムまで多様であった。また、その訪問期間についても1週間程度のものから半年以上まで様々であったが、全体としては1~2週間程度のものが多かった。担当組織としては委員会レベルから、センター、分野など専任教員が配置されている施設までであった。

提言

平成28年度のコアカリ改訂のキャッチフレーズ「多様なニーズに対応できる歯科医師の養成」を実現するために、各施設では国際交流が積極的に推進されていることが明らかとなった。一方で、各施設における国際交流に対する認識はまちまちであり、各施設が交流(提携)している海外教育施設もバリエーションが多く、また各施設が有する人的、物的資源にも限界があると考えられる。一方で、人と人が直接対面する従来の交流方法とは別に、オンラインを用いた交流も可能な時代となっていることを踏まえ、コアカリにおいてどこまで踏み込んだ記載とするかは検討を要する。

問3の結果では、歯科医学・歯科医療英語に特化した英語教育は28歯科大学で行われていたが、英語による歯学・医学専門教育を行っているとは回答したのは14大学だった。今後、どこまでのグローバル教育が必要とされるかは検討が必要である。

7) 学生の学修評価への影響

平成28年度改訂版コアカリ導入により学生の学修評価にどのような影響があったかについて、新規の評価方法を追加した施設は4施設、従来の評価方法を修正したのは3施設であった。その具体的な内容については、平成28年度改訂版コアカリに準拠した形での試験の出題基準の変更などであった。成績の記録方法については「複数段階制」の採用が20施設、Grade Point Average (GPA) 制の採用が18施設、点数制が15施設、合否制が12施設と多様であった。

共用試験 CBT の取扱いについては、平成28年度改訂版コアカリ導入により「変化があった」と回答したのは4施設であり、その内容は合否判定基準への Item Response Theory (IRT) の採用に関するものが多かった。共用試験 OSCE に関しては、大半の施設で進級判定等での取扱いに「変化はなかった」と回答した。臨床実習終了時の臨床能力評価について平成28年度改訂版コアカリ導入により「変化があった」と回答したのは5施設であり、その内容は「臨床実習の評価に臨床能力評価(試験)を正式に組み込んだ」といった回答が多かった。卒業判定時の学力評価(知識)の取扱いには、平成28年度改訂版コアカリ導入の影響は認められなかった。

提言

全般として、平成28年度改訂版コアカリ導入に伴う学生の学修評価への大きな影響は認められなかった。しかしながら、改訂版コアカリに準拠した形での評価項目や評価方法への修正は必要であり、目標への達成度を明確に示し学生へフィードバックする必要がある。また、コアカリにおいては、最終的にすべての学生の目標への達成度が評価されることを念頭に置き、評価可能な内容、記載とすることを考慮する必要がある。

8) 授業評価方法等への影響

平成28年度改訂版コアカリ導入に伴う、「学生による授業評価」への影響は3施設で「変化があった」と回答した。その具体的な内容は「ポートフォリオの導入」や「学生アンケートを用いた評価」などであった。また「同僚による授業評価」への影響は、「変化があった」と回答した施設は認められなかったものの、「もともと実施していない」と回答した施設が9施設みられた。「歯科大学、歯学部としての科目評価(プログラム評価)方法」への影響については、「変化があった」と回答したのは4施設で、その内容は平成28年度改訂版コアカリ導入に伴う教育内容の精査や、それに準じた科目評価の実施などであった。

提言

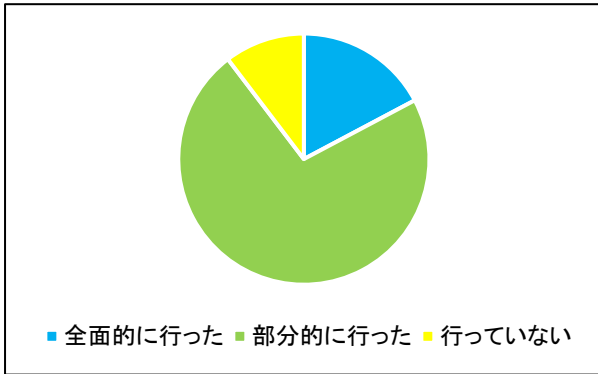
コアカリにおいては、学生による授業評価や教員同士の同僚評価までを求める内容ではないと考えられるが、これらのような様々なレベルでの評価内容や評価項目の構築に大きく影響を与えることを念頭に置き、表現を精緻化しつつ作成する必要がある。

➤ 結果

【問1 カリキュラム全般】

1-A. 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの扱いについて

1)平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、貴学では学士課程教育のカリキュラム改訂を行いましたか

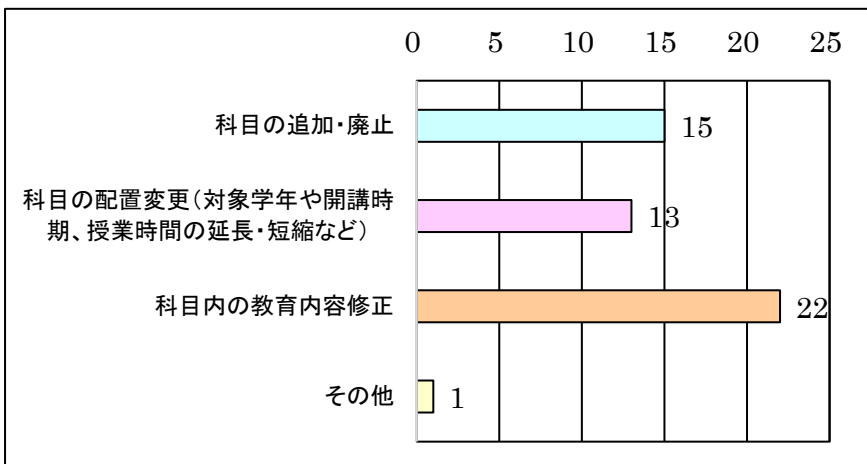


回答内容	回答数
①全面的に行った	5
②部分的に行った	21
③行っていない	3

③行っていない理由を具体的に

回答内容	回答数
2012(平成 24)年度に全面的に改訂しているので	1
既存の科目でモデル・コア・カリキュラムの範囲をカバーしていたため	1

2)「全面的に行った」また「部分的に行った」場合、どのレベルまで改訂を行いましたか(複数選択可)



回答内容	回答数
①科目の追加・廃止	15
②科目の配置変更(対象学年や開講時期、授業時間の延長・短縮など)	13
③科目内の教育内容修正	22
④その他	1

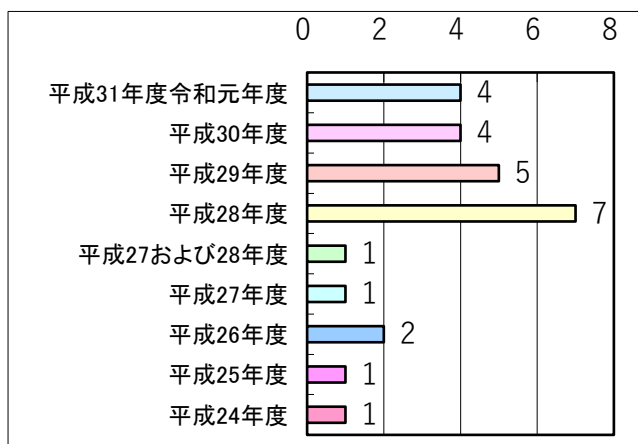
① 具体的な科目名

回答内容	回答数
PBL	4
地域包括ケアシステム	3
災害歯科・法歯学	3
シミュレーション実習	2
歯学研究演習	2
チーム医療	2
その他	基礎ゲノム医学、がんの生物学、歯科医療安全管理学、地域歯科保健実習、国際歯科保健医療学入門、歯科医療管理学、歯科臨床推論、プロフェッショナリズム、食育学

④具体的に

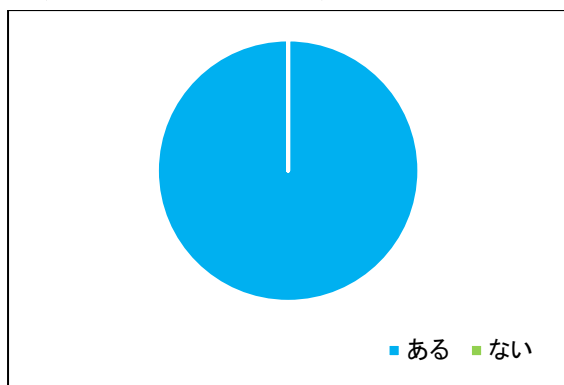
回答内容	回答数
正課外のキャリア教育コンテンツの追加	1

3)「全面的に行った」また「部分的に行った」場合、改訂したカリキュラムの対象者は何年度入学生からですか



回答内容	回答数
平成 31 年度・令和元年度	4
平成 30 年度	4
平成 29 年度	5
平成 28 年度	7
平成 27 および 28 年度	1
平成 27 年度	1
平成 26 年度	2
平成 25 年度	1
平成 24 年度	1

4) 貴学にはカリキュラム改訂を担当する組織はありますか



回答内容	回答数
ある	29
ない	0

5) 4)で「ある」と回答した場合、
具体的な組織の名称をご記入ください

回答内容	回答数
学務委員会	6
教務委員会	5
カリキュラム委員会	5
歯学教育委員会	3
カリキュラム改善部会	2
カリキュラム WG・教育改革 WG	2
歯学教育開発センター・支援センター	2
総合学力向上員会	1
教務部会	1
総合教育部	1

主なスタッフ構成(役職・人数等)をご記入ください

学部長、教育委員長、教育推進室長等を含む 20～30 名の委員会

学部長、教務部長、病院長、教務部副部長、臨床系教授、基礎系教授、教務・学生部の計 12 名

教授 7 名・准教授 8 名・助教 4 名・参事 1 名

教授 11 名、准教授 2 名、助教 1 名、事務担当 1 名

専任教授 1、兼任教員 7

24 人(学部長、副学部長、教務委員長、各分野担当者)

助教以上の教員。歯学教育委員会 17 名、ディレクター会議 22 名(重複あり)

学務担当、学務委員会副委員長、学務委員会委員

教授 11 人、准教授 4 人、講師 2 人、助教 1 人、事務 3 人

学生部長・部門長・各講座の教授、准教授、講師、事務職員 合計 20 名

教授 7 名、准教授 1 名

教授 5 名、准教授・講師 4 名

各委員会 8 名程度で、基本的には教授または准教授で構成されている

教授3人

歯学部長、教務学生部長ほか7名

学部長、教務主任、教務委員長、各学年主任、病院長、卒業試験委員会委員長、臨床系教員、歯学部図書委員長、歯学教育情報分析室、歯学部事務長、各講座委員等 延べ 40 人位

学務担当副学部長 1 名、学務委員長 1 名、教務委員長 1 名、学生支援委員長 1 名、入試実施委員長 1 名、臨床実習実施委員長 1 名、口腔生命福祉学科長 1 名、学務係 2 名

学長、歯学部長、教務部長、学事室長

副学部長(教育研究担当)、総合歯科臨床教育学の教授、学部長が指名する教授、准教授又は講師

一般教育、歯科医学教育開発センター、基礎、臨床系 教授 23 名

教授 8 名、准教授 1 名

副学長 1 名(教授)、教務部長 1 名(教授)、副部長 5 名(教授・准教授)、教務課長 1 名(事務職員)他(教員 1 名、事務職員 4 名)

教育支援センター長、センター職員(教員 3 名、事務 1 名)

教授9人

学部長、歯学科長、教授2名、准教授2名、講師1名、事務局スタッフ1名

委員長:教務部長 以下 10 名

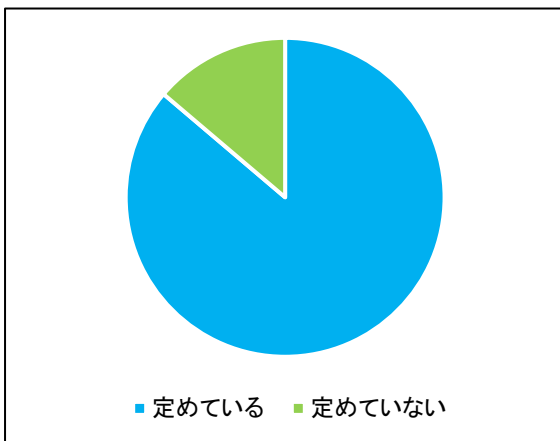
歯学部長、教務部長、教務副部長、その他委員 7 名

教授:3 名、准教授:2 名、講師:3名、助教:1 名

1-B. 学修成果(コンピテンシー)

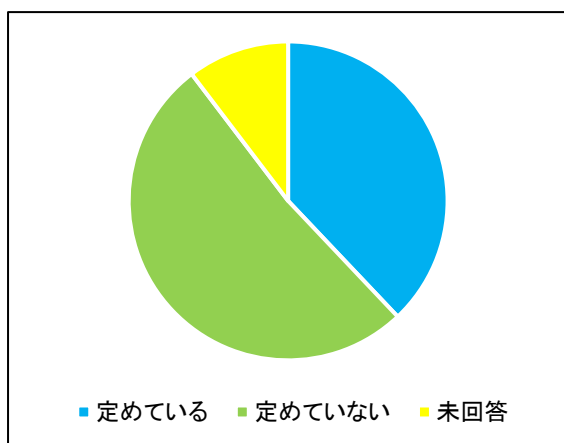
平成 28 年度改訂版コアカリで「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」が明示されましたが、貴学では

1)学修成果(コンピテンシー)を定めていますか



回答内容	回答数
定めている	25
定めていない	4

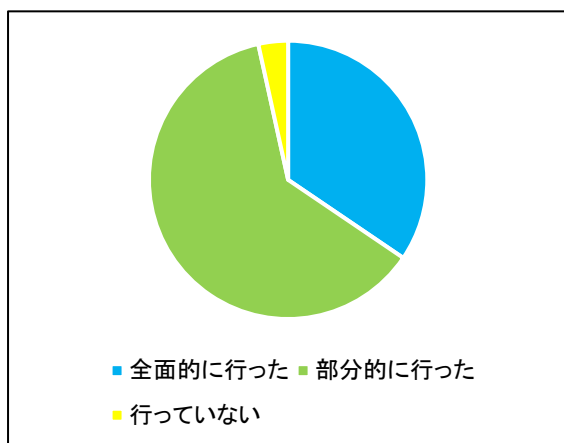
2) 1)で「定めている」と回答した場合、マイルストーンを定めていますか



回答内容	回答数
定めている	11
定めていない	15
未回答	3

1-C. シラバス

1) 平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、シラバス記載内容の修正を行いましたか



回答内容	回答数
①全面的に行った	10
②部分的に行った	18
③行っていない	1

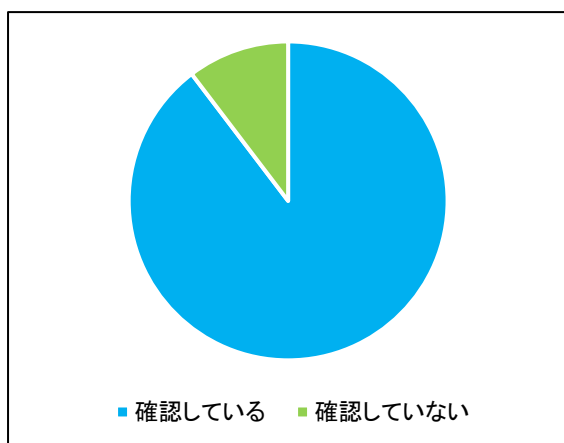
①具体的に

回答内容	回答数
シラバスへのコアカリ記載	6
シラバスをオンライン化し、シラバス上でコアカリとの対比ができるように改訂	1

② 具体的に

回答内容	回答数
コアカリの学修目標とシラバスの科目到達目標の対応の整理	2
不足部分の追加	2
漏れが無いように各科目の教育内容の調整	2
コンピテンシーとの対応を意識したディプロマポリシーの作成	1

2)平成 28 年度改訂版コアカリのすべての項目がシラバスに反映されていることを確認していますか



回答内容	回答数
確認している	26
確認していない	3

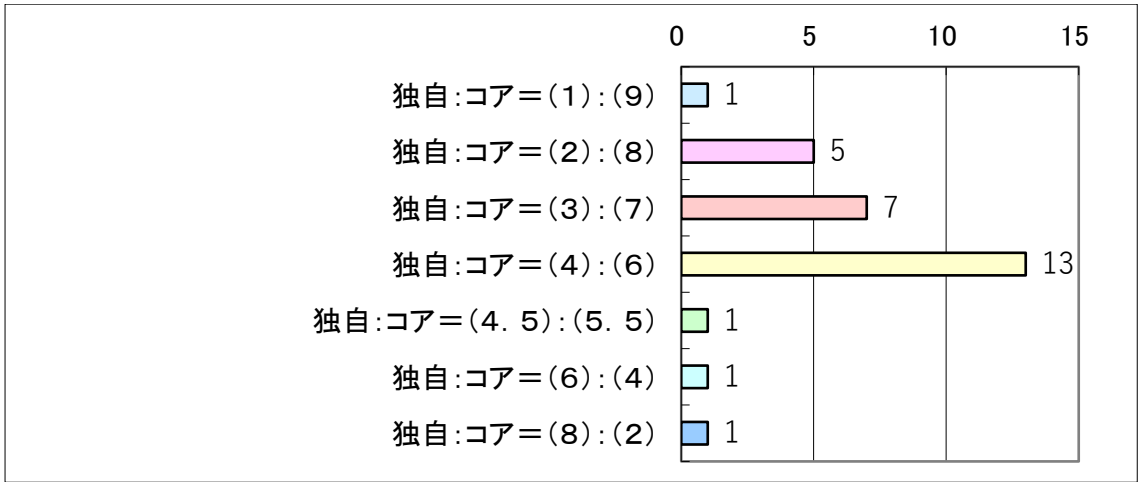
3) 2)で「確認している」と回答した場合、確認作業を行っているのは誰ですか。組織名や役職名でお答えください

回答内容	回答数
教務委員会・教務委員長	9
歯学教育開発センター、教育改革ワーキング	4
カリキュラム検討部会・カリキュラム委員会	4
科目責任者会議、各主担当教員	3
教授会	1
その他	各講座・部門責任者、シラバス検討委員会、総合教育部、臨床実習委員会ほか

1-D. コアカリと大学独自のカリキュラムとの割合

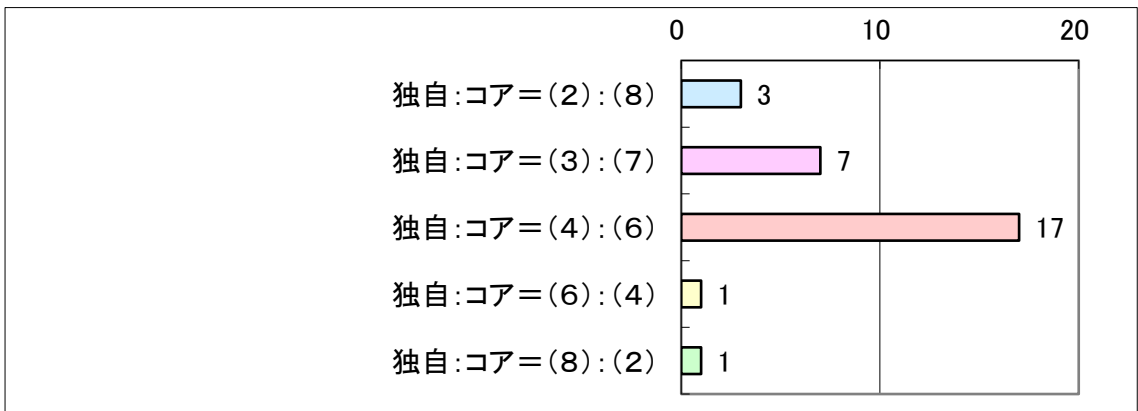
平成 28 年度改訂版コアカリでは、各大学の特色ある独自のカリキュラムは学修時間数の4割程度と示されています(コアカリは6割程度となります)

1)現状(コロナ禍以前)において、双方の学修時間数の割合はどの程度ですか
(集計の都合上、合計で 10 となるようにしてください)



回答内容	回答数
独自:コア=(1):(9)	1
独自:コア=(2):(8)	5
独自:コア=(3):(7)	7
独自:コア=(4):(6)	13
独自:コア=(4.5):(5.5)	1
独自:コア=(6):(4)	1
独自:コア=(8):(2)	1

2)貴学では、理想的には双方の学修時間数の割合はどの程度が望ましいとお考えですか
(集計の都合上、合計で 10 となるようにしてください)



回答内容	回答数
独自:コア=(2):(8)	3
独自:コア=(3):(7)	7
独自:コア=(4):(6)	17
独自:コア=(6):(4)	1
独自:コア=(8):(2)	1

3) 2)の理想の割合に近づけるためには、貴学ではどのような教育内容の削減または追加が望ましいとお考えですか

削減が望ましい教育内容

回答内容	回答数
一般教育の実験	1
社会歯科学	1
臨地実習を増やして、附属病院内における臨床実習	1
現在行っている教育内容で削除が望ましいと考えるものは無い	1

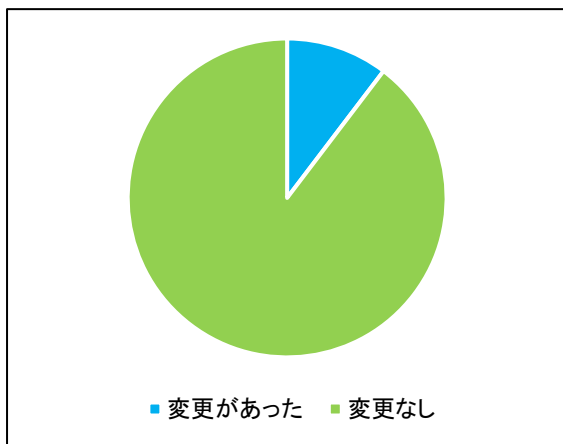
追加が望ましい教育内容

回答内容	回答数
研究実習科目	2
失敗事例の分析とリカバリー方法(とくに、インプラントや矯正治療における)	1
人間性の涵養	1
医療経済	1
医療福祉	1
歯科英語	1
地域医療	1
医科歯科連携(学外医療施設での臨地実習)	1
国際化プログラム	1
臨床実習アドバンス編(最新の治療技術)	1
臨床解剖学(頭頸部に特化した解剖学)	1
東洋医学	1
スポーツ歯学	1
歯学入門(1年次学生)	1

1-E. 授業時間配分への影響

平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、下記の項目に変更がありましたか

1) 学期区分(2学期制、3学期制、4学期制、学期制なし等)

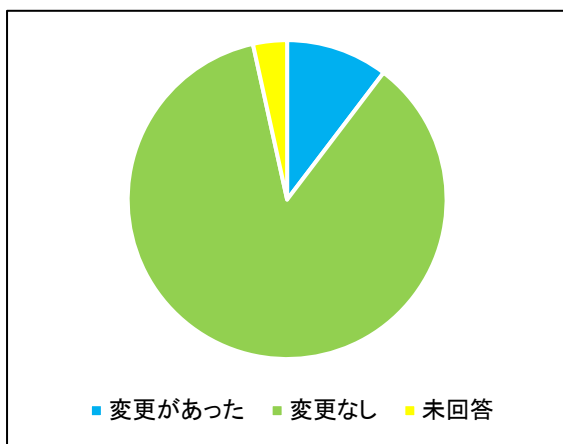


回答内容	回答数
①変更があった	3
②変更なし	26

① 具体的に

回答内容	回答数
4学期制に変更	2
2学期制に変更	1

2) 1回の授業時間

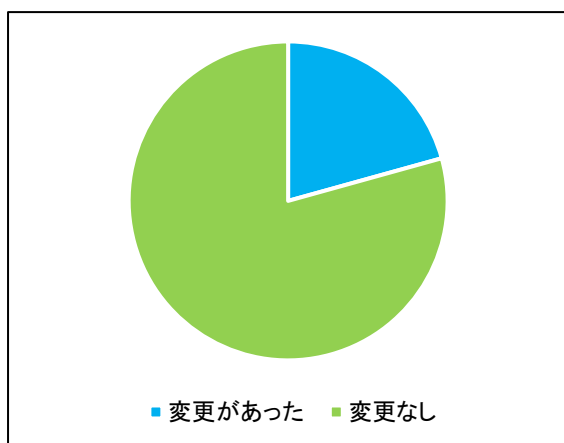


回答内容	回答数
①変更があった	3
②変更なし	25
③未回答	1

①具体的に

回答内容	回答数
60分授業に変更	2
80分授業から90分授業に変更	1

3) 一般教育(教養)の単位数および授業時間数

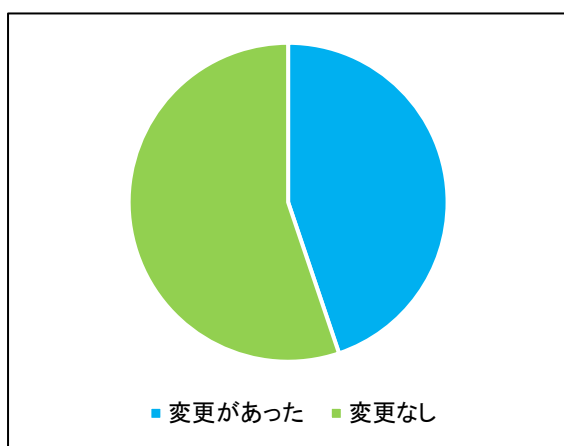


回答内容	回答数
①変更があった	6
②変更なし	23

① 具体的に

回答内容	回答数
60分授業・4学期制への変更	1
教養教育の単位数の減少、基礎医学の単位数の増加	1
教養課程が2年から1年半に減少	1
自由選択科目「海外医療時事問題研究Ⅰ-Ⅲ」を2学年-4学年を対象に開講	1

4) 専門教育の単位数および授業時間数



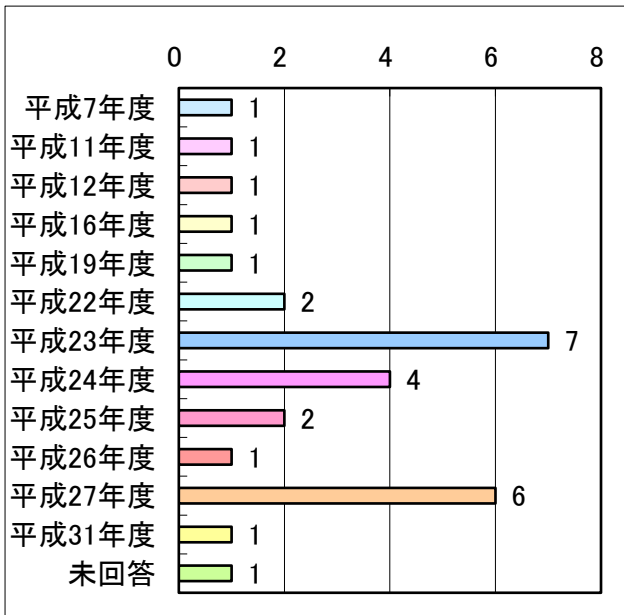
回答内容	回答数
①変更があった	13
②変更なし	16

①具体的に

回答内容	回答数
増加	5
減少	1
不明	2
その他	「60分授業・4学期制」へ見直

1-F. 過去の学士課程教育全体におけるカリキュラム改訂

1)平成 28 年(2016 年)以前の最終改訂年度はいつですか



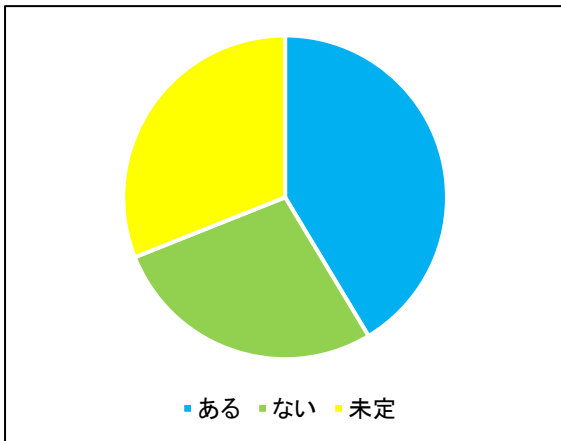
回答内容	回答数
平成 7 年度	1
平成 11 年度	1
平成 12 年度	1
平成 16 年度	1
平成 19 年度	1
平成 22 年度	2
平成 23 年度	7
平成 24 年度	4
平成 25 年度	2
平成 26 年度	1
平成 27 年度	6
平成 31 年度	1
未回答	1

2)その当時の改訂のねらいは

回答内容	回答数
効率よく歯学教育が行えるようにカリキュラムの編成の変更	10
歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂への対応	5
スパイラル教育の導入	2
既存科目、臨床実習開始時期の見直し	2
バイオデンタルカリキュラム、口腔医学カリキュラムへの設立	2
リメディアル教育の充実	1
単位数の見直し	1
その他	5学期制の導入、医歯学融合教育(医学科生との合同の授業)の導入、自己学修能力の育成

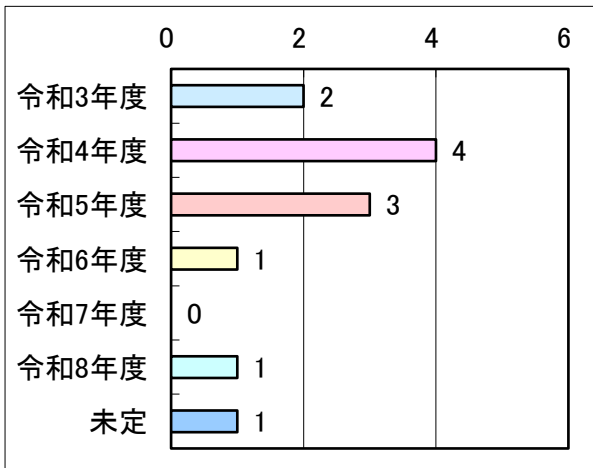
1-G. 学士課程教育全体におけるカリキュラム改訂の予定

1) 今後、大幅なカリキュラム改訂の予定がありますか



回答内容	回答数
ある	12
ない	8
未定	9

2) 1)で「ある」と回答した場合、実施予定の時期は



回答内容	回答数
令和3年度	2
令和4年度	4
令和5年度	3
令和6年度	1
令和7年度	0
令和8年度	1
未定	1

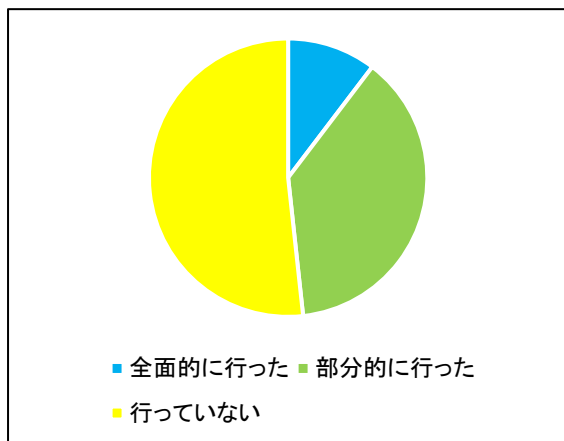
3) 改訂の理由は

回答内容	回答数
アウトカム基盤型カリキュラム等へ移行するため	5
コアカリ対応	4
教育活動の効率化を高めるため	3
学生の満足度を高める教育システムへの転換を図るため	2
他大学、医学部他学科および口腔保健学科との連携授業の推進のため	2
科目間の縦横断の連携を図るため	1
遠隔授業の拡大のため	1
共用試験の公的化への対応	1

【問2 一般教育(教養)への影響】

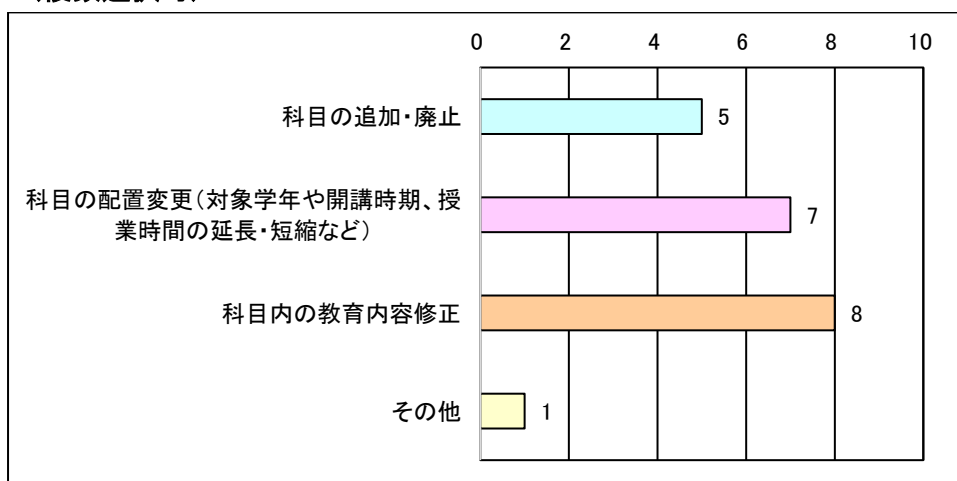
2-A. 一般教育(教養)カリキュラムの扱いについて

1) 平成28年度改訂版コアカリが導入されたことによって、貴学では一般教育(教養)カリキュラム改訂を行いましたか



回答内容	回答数
全面的に行った	3
部分的に行った	11
行っていない	15

2) 1)で「全面的に行った」また「部分的に行った」と回答した場合、どのレベルまで改訂を行いましたか (複数選択可)



回答内容	回答数
①科目の追加・廃止	5
②科目の配置変更(対象学年や開講時期、授業時間の延長・短縮など)	7
③科目内の教育内容の修正	8
④その他	1

①具体的な科目名

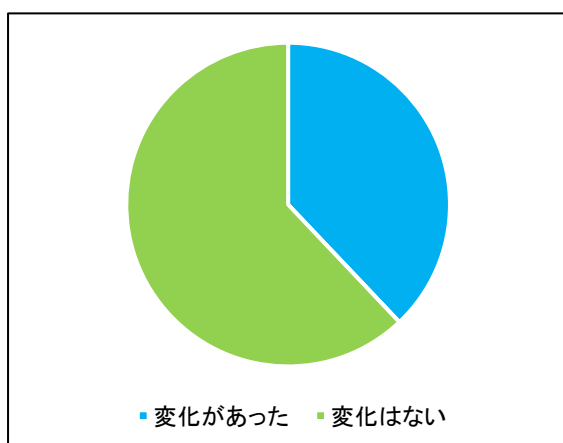
回答内容	回答数
行動科学	1
多職種連携のためのアカデミックリテラシー	1
生体物理学	1
生体内物質の化学的基礎	1
歯学スタディ・スキルズ II、PBL 入門、教養を考える	1
臨床心理学	1
自由選択科目「海外医療時事問題研究 I - III」	1

④具体的に

回答内容	回答数
60 分授業・4学期制	1

3)平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、教育内容に変化がありましたか。

あった場合は、具体的にご記入ください。



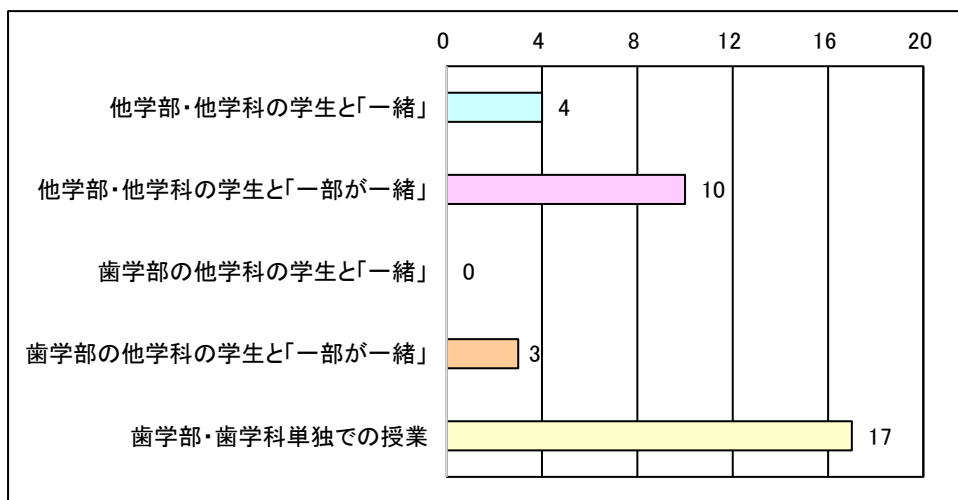
回答内容	回答数
①変化があった	11
②変化はない	18

① 具体的に

回答内容	回答数
コアカリに準拠した教育内容に変更	4
英語教育の強化	1
多職種連携医学教育の強化	1
物理、化学、数理統計学の教育内容の変更	1

2-B. 一般教育(教養)科目の授業実施形態

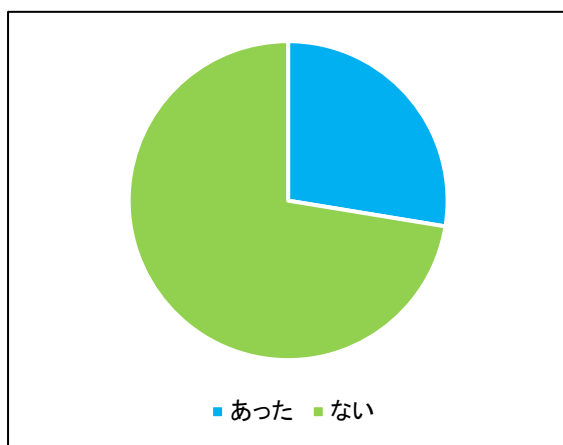
もっとも当てはまるのはどの形態ですか(複数回答可)



回答内容	回答数
他学部・他学科の学生と「一緒」	4
他学部・他学科の学生と「一部が一緒」	10
歯学部・他学科の学生と「一緒」	0
歯学部・他学科の学生と「一部が一緒」	3
歯学部・歯学科単独での授業	17

2-C. 一般教育(教養)と専門教育との関係

1) 両者の関係に変更がありましたか(授業時間、開講時期、それぞれの割合など)



回答内容	回答数
①あった	8
②ない	21

① 具体的な内容は

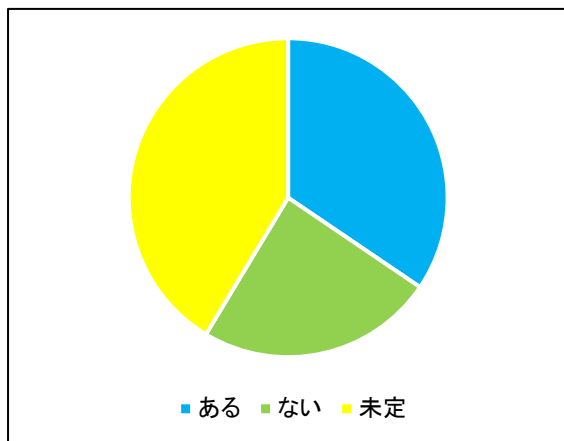
回答内容	回答数
専門科目の開講時期、授業数の変更	2
一般教育の変更(専門科目を一般科目に変更、教養課程の履修年限の変更)	5

2) 変更があった場合、どのような理由での変更でしたか

回答内容	回答数
一般教養カリキュラムの変更	7
一般教育と専門教育を融合させるため	1
令和4年のカリキュラム改正を見据えて	1

2-D. 一般教育(教養)カリキュラムの改訂予定について

今後、大幅に一般教育(教養)カリキュラムを変える予定はありますか



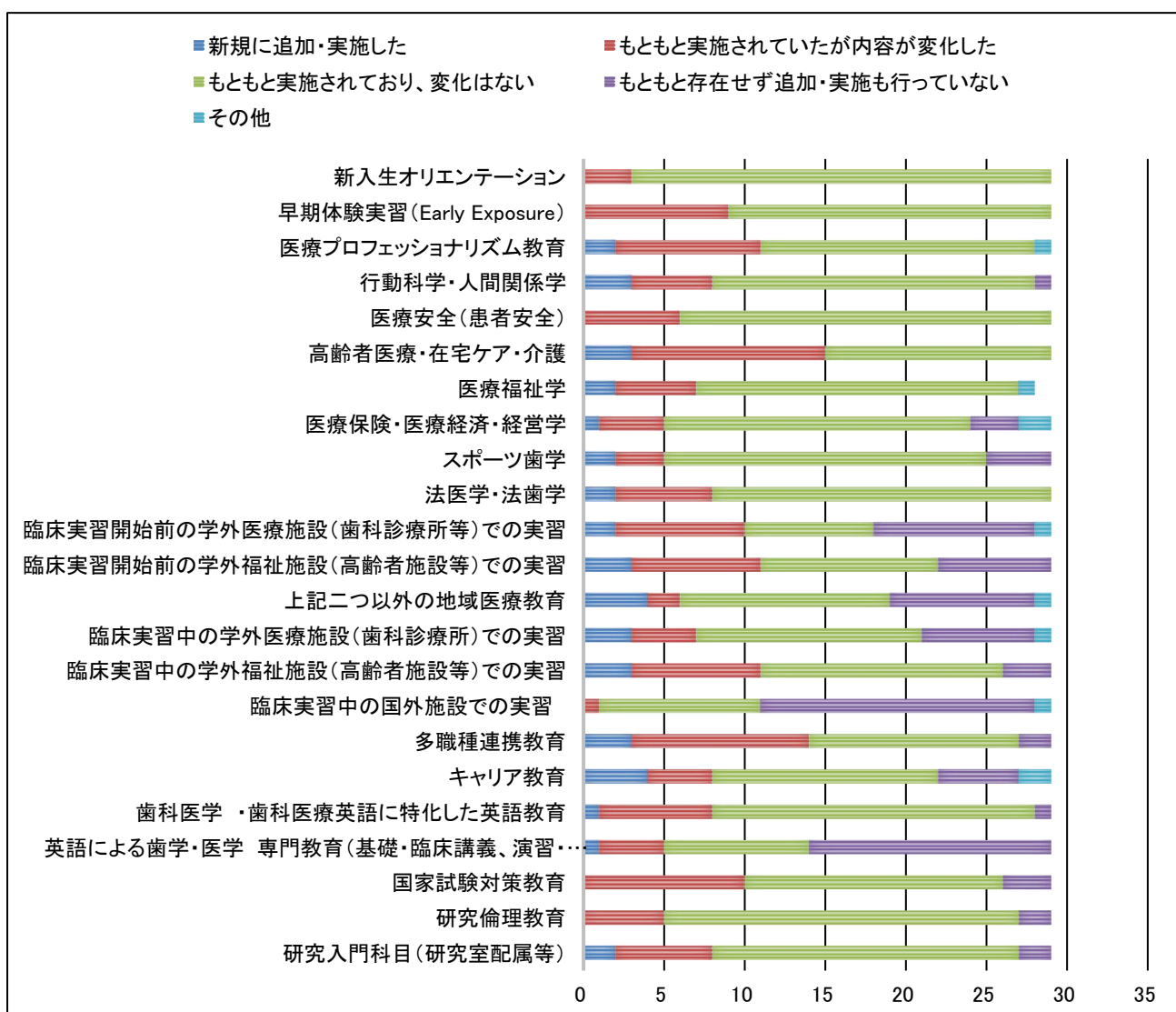
回答内容	回答数
①ある	10
②ない	7
③未定	12

① 具体的な時期

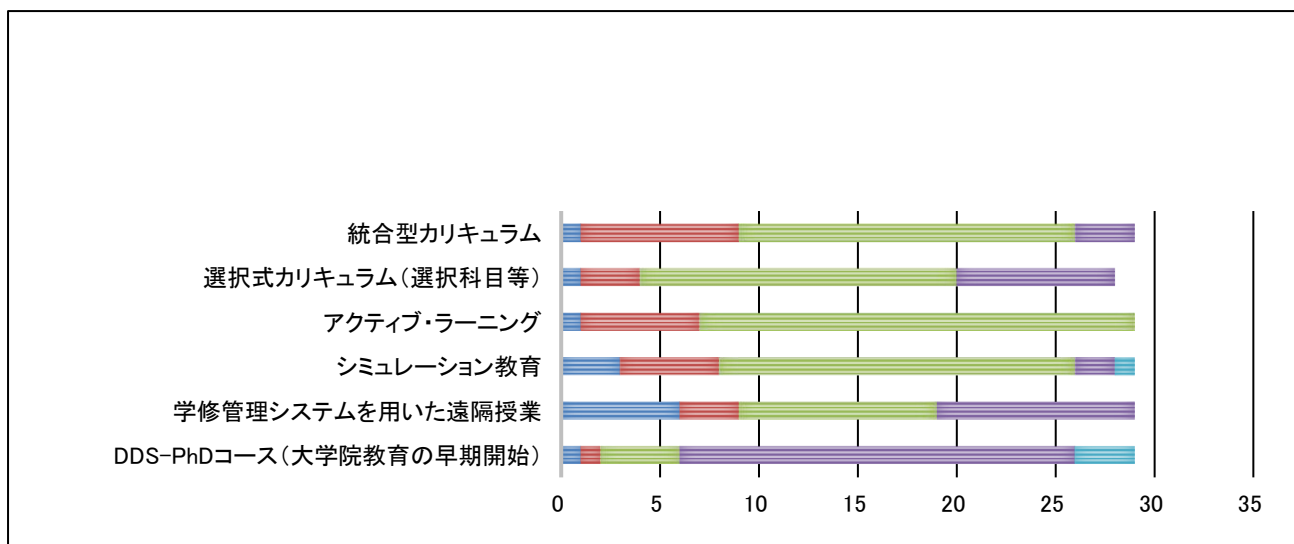
回答内容	回答数
令和3年度	1
令和4年度	1
令和5年度	1
歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に合わせて教養カリキュラムも改訂する	1

【問3 平成 28 年度改訂版コアカリ導入による教育内容及び方略への影響】

以下の内容は、平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、どのような変化がありましたか。



<教育内容及び方略>	新規に追加・実施した	もともと実施されていたが内容が変化した	もともと実施されており、変化はない	もともと存在せず追加・実施も行っていない	その他
新入生オリエンテーション	0	3	25	0	0
早期体験実習(Early Exposure)	0	9	19	0	0
医療プロフェッショナルリズム教育	2	9	16	0	1
行動科学・人間関係学	3	5	19	1	0
医療安全(患者安全)	0	6	22	0	0
高齢者医療・在宅ケア・介護	2	12	14	0	0
医療福祉学	1	5	20	0	1
医療保険・医療経済・経営学	1	4	19	3	1
スポーツ歯学	1	3	20	4	0
法医学・法歯学	2	6	20	0	0
臨床実習開始前の学外医療施設(歯科診療所等)での実習	1	8	8	10	1
臨床実習開始前の学外福祉施設(高齢者施設等)での実習	2	8	11	7	0
上記二つ以外の地域医療教育	4	2	12	9	1
臨床実習中の学外医療施設(歯科診療所)での実習	3	4	13	7	1
臨床実習中の学外福祉施設(高齢者施設等)での実習	3	8	14	3	0
臨床実習中の国外施設での実習	0	1	9	17	1
多職種連携教育	3	10	13	2	0
キャリア教育	4	4	14	4	2
歯科医学・歯科医療英語に特化した英語教育	1	7	19	1	0
英語による歯学・医学専門教育(基礎・臨床講義、演習・実習等)	1	4	9	14	0
国家試験対策教育	0	10	15	3	0
研究倫理教育	0	5	21	2	0
研究入門科目(研究室配属等)	2	5	19	2	0

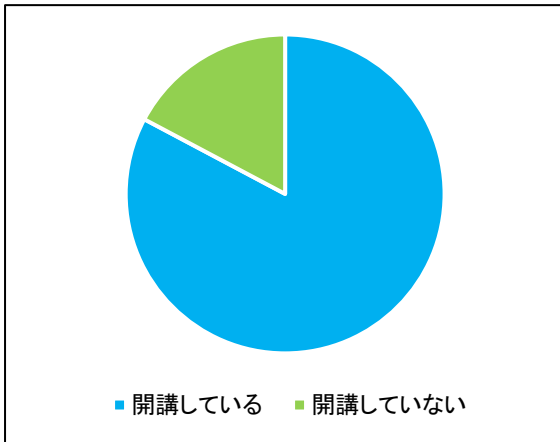


<方略>	新規に追加・実施した	もともと実施されていたが内容が変化した	もともと実施されており、変化はない	もともと存在せず追加・実施も行っていない	その他
統合型カリキュラム	1	7	17	3	0
選択式カリキュラム (選択科目等)	1	3	16	7	0
アクティブ・ラーニング	1	5	22	0	0
シミュレーション教育	3	5	18	1	1
学修管理システムを用いた遠隔授業	6	3	10	9	0
DDS-PhD コース (大学院教育の早期開始)	1	1	4	19	3

【問4 臨床実習導入科目(シミュレーション教育など)への影響】

4-A. 現在実施している科目について

1) 臨床実習導入科目を開講していますか



回答内容	回答数
開講している	24
開講していない	5

2) 1)で「開講している」と回答した場合、科目名およびその教育内容はこういったものですか

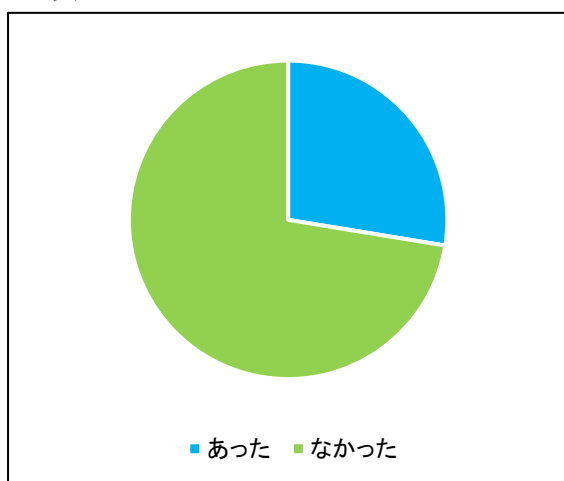
回答内容	回答数	回答内容
臨床予備実習・登院前実習	臨床実習への導入科目、臨床科目と基礎科目の関連性の理解	11
臨床総合演習	臨床実習への導入科目	1
臨床実習	医療安全等、病院内の診療における必要事項の再確認及び各科における導入実習	1
統合臨床基礎実習	相互実習(印象採得、歯式採得など)、症例分析実習、等	1
臨床シミュレーション実習	模型実習、シミュレーション実習、相互実習	4
早期体験実習	将来の歯科医師としての自覚を高め、歯科臨床に必要な基本的態度と知識を身につける。	1
臨床体験実習	将来の歯科医師としての自覚を高め、歯科臨床に必要な基本的態度と知識を身につける。	1
見学実習		1
スキルアップ実習		1
専門総合特別講義	実際の歯科外来における初診患者の医療面接からバイタルサインの測定、口腔内外診査、エックス線撮影を含めた各種検査、歯周基本検査、治療内容の説明に至る患者の流れを実際の診療室で学修する。	1
歯科医学総合講義4		1
PBL チュートリアル		1
歯科入門セミナー	早期体験実習、病院見学、歯科診療所見学	1
コア歯学教育演習Ⅱ	シミュレータや相互実習、OSCE 対策も兼ねた演習・実習	1

* 複数実施大学あり

3) 開講学年および時期は

回答内容	回答数
1年次	3
前期	1
後期	2
2年次	3
前期	2
後期	1
3年次	2
後期	2
4年次	10
前期	2
3月	1
11月から1月	1
後期	6
5年次	21
前期	8
4月から11月	1
後期	9

4) 平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、具体的な教育方法や教育内容に変化がありましたか



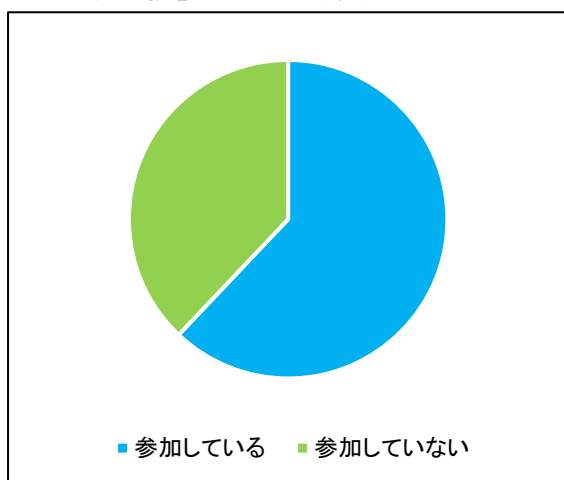
回答内容	回答数
①あった	8
②なかった	21

① 具体的な変化の内容

回答内容	回答数
科目数の追加	2
コアカリに沿ったカリキュラムへの改訂	2
コアカリの未実施項目の追加	1
自験項目の明確化	1

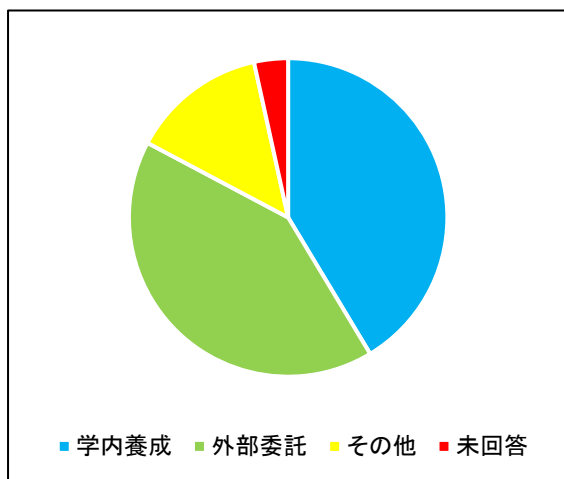
4-B. 「医療面接」教育における模擬患者 (Simulated Patient: 以下 SP) の活用状況

1) 「医療面接」の学習に教員や学生以外の SP が参加していますか



回答内容	回答数
参加している	18
参加していない	11

2) SP はどのように確保していますか



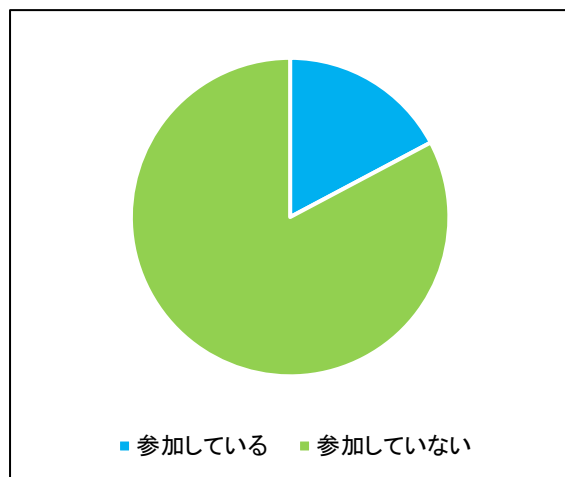
回答内容	回答数
①学内養成	12
②外部委託	12
③その他	4
④未回答	1

③具体的に

回答内容	回答数
SP 研究会などに外部委託	2
学内で SP を養成	2
附属医療施設歯科衛生士	1

4-C. 「医療面接」教育以外における SP の活用状況

1) 「医療面接」教育以外で教員や学生以外の SP が参加していますか



回答内容	回答数
①参加している	5
②参加していない	24

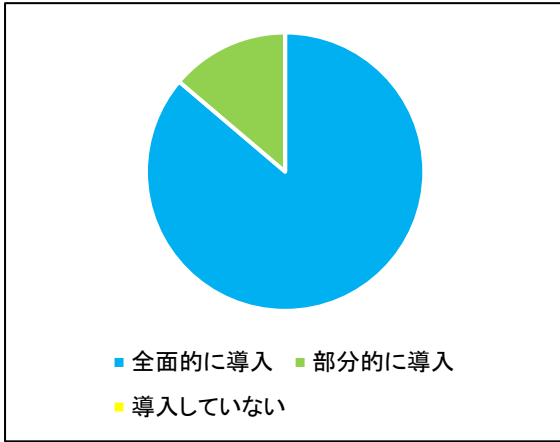
① 具体的な教育内容

回答内容	回答数
口腔内外診査	1
接遇など	1
多職種連携教育	1
OSCE	1

【問5 診療参加型臨床実習への影響】

*「診療参加型臨床実習」とは：歯科医師として必要な基本的臨床能力を習得するため、患者の同意を得て、指導歯科医のもとで実際の歯科医療に携わり歯科医行為を行う臨床実習

5-A. 診療参加型臨床実習の導入状況は

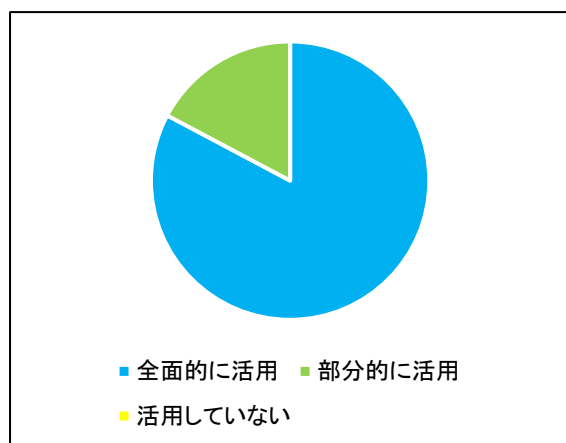


回答内容	回答数
全面的に導入	25
部分的に導入	4
導入していない	0

5-B. 診療参加型臨床実習の対象学年および時期は

回答内容	回答数
(5年生4月～5年生2月)	2
(5年生4月～5年生3月)	5
(5年生4月～5年生12月)	1
(5年生4月～6年生4月)	2
(5年生4月～6年生5月)	2
(5年生4月～6年生6月)	1
(5年生4月～6年生8月)	1
(5年生4月～6年生9月)	1
(5年生4月～6年生12月)	1
(5年生5月～6年生4月)	1
(5年生6月～6年生6月)	1
(5年生9月～6年生9月)	1
(5年生9月～6年生10月)	1
(5年生10月～6年生9月)	4
(5年生10月～6年生10月)	2
(5年生11月～6年生10月)	1
(5年生11月～6年生11月)	1
(5年生12月～6年生11月)	1

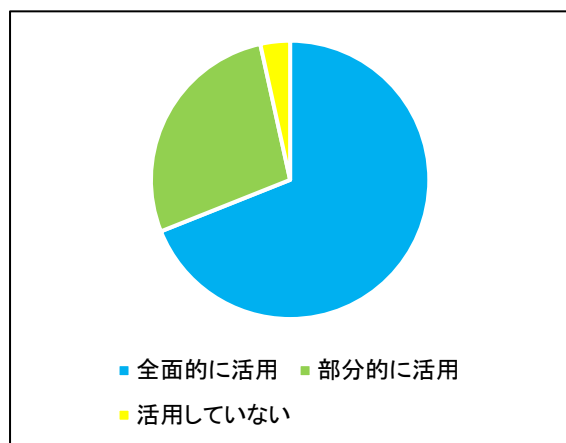
5-C. 平成 28 年度改訂版コアカリに記載されている「臨床実習の内容と分類」の活用状況について



回答内容	回答数
全面的に活用	24
部分的に活用	5
活用していない	0

5-D. 「歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン

— 歯学教育モデル・コアカリキュラム(平成 28 年度改訂版)準拠—(案)」の活用状況について



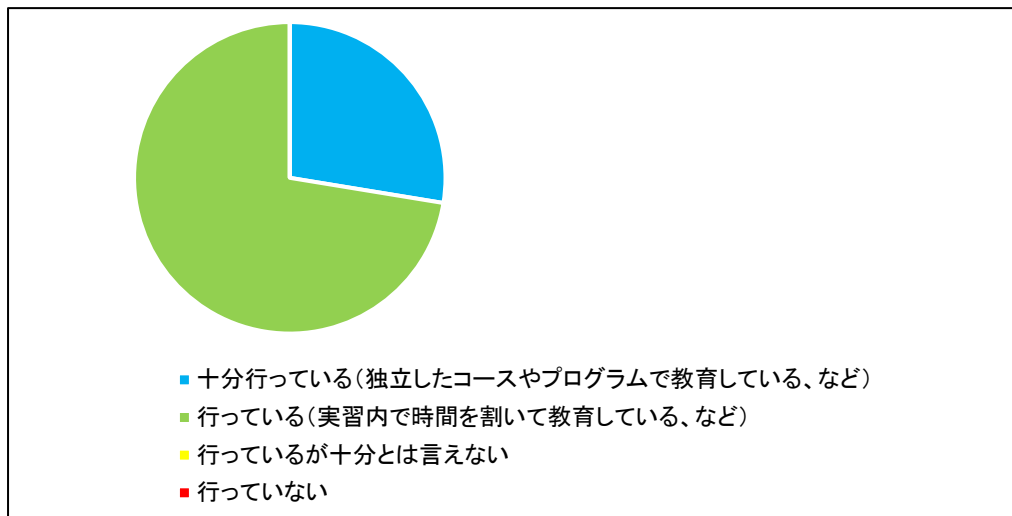
回答内容	回答数
①全面的に活用	20
②部分的に活用	8
③活用していない	1

③理由

回答内容	回答数
すでに診療参加型臨床実習に必要な本学独自の様式や資源が整っているため	1

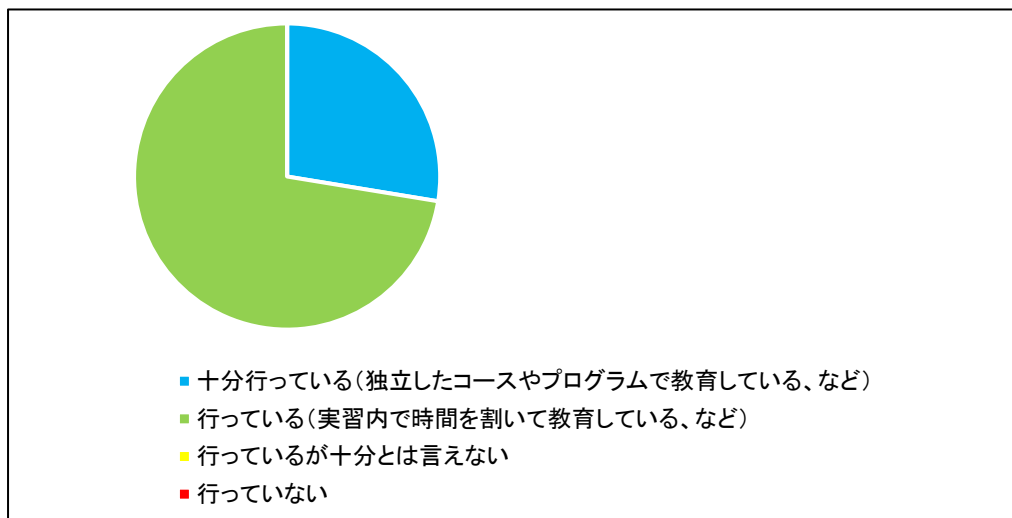
5-E. 以下の内容の教育を診療参加型臨床実習内で行っていますか

1) 医療安全



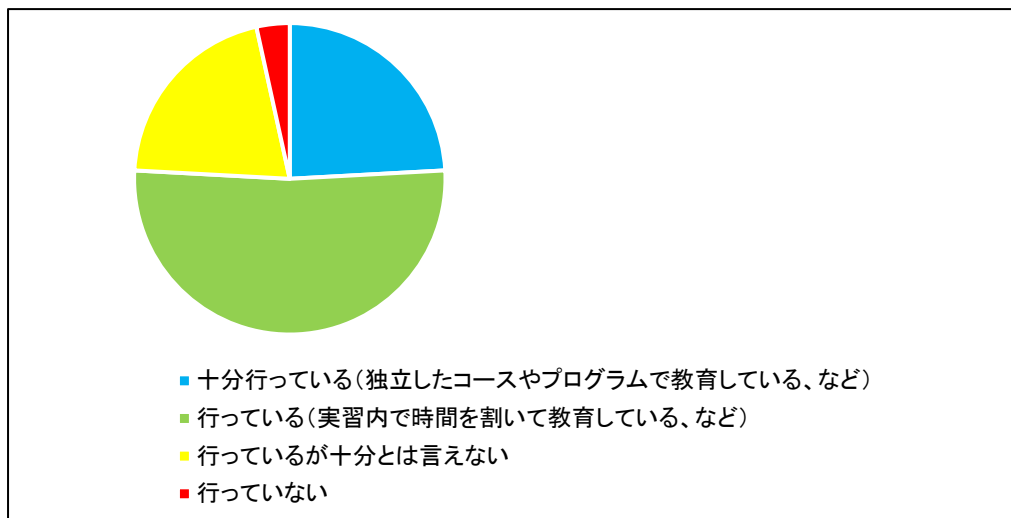
回答内容	回答数
十分行っている(独立したコースやプログラムで教育している、など)	8
行っている(実習内で時間を割いて教育している、など)	21
行っているが十分とは言えない	0
行っていない	0

2) 感染対策



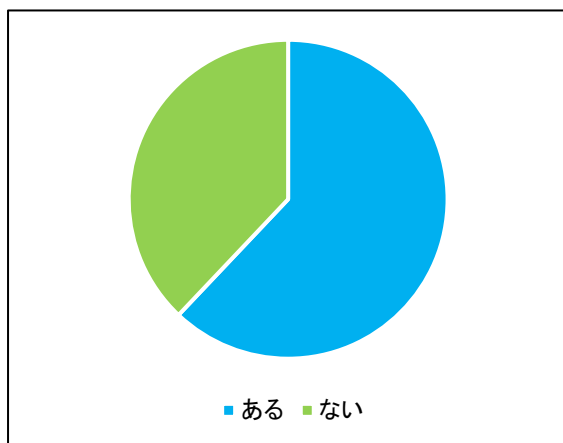
回答内容	回答数
十分行っている(独立したコースやプログラムで教育している、など)	8
行っている(実習内で時間を割いて教育している、など)	21
行っているが十分とは言えない	0
行っていない	0

3)プロフェッショナリズム



回答内容	回答数
十分行っている(独立したコースやプログラムで教育している、など)	7
行っている(実習内で時間を割いて教育している、など)	15
行っているが十分とは言えない	6
行っていない	1

5-F. 診療参加型臨床実習を行うにあたり、実習指導教員となるための資格はありますか

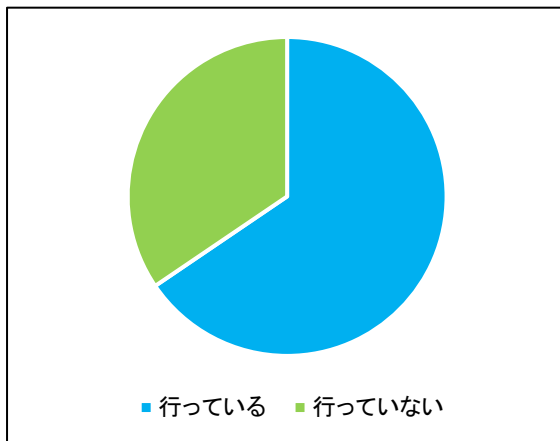


回答内容	回答数
①ある	19
②ない	10

① 具体的な資格は

回答内容	回答数
助教以上の常勤職員	5
臨床研修指導歯科医の資格保持者	3
臨床経験5年以上	3
臨床経験4年以上	2
教育経験5年以上	1
診療科、講座の所属長が推薦した専修医以上	1
臨床経験3年以上の医員以上	1
学会等の定める専門医、認定医、指導医	1

5-G. 診療参加型臨床実習の指導教員に対してFD等を行っていますか

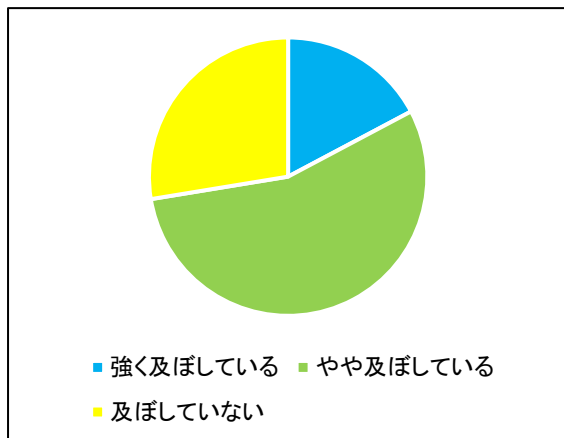


回答内容	回答数
①行っている	19
②行っていない	10

①具体的な内容

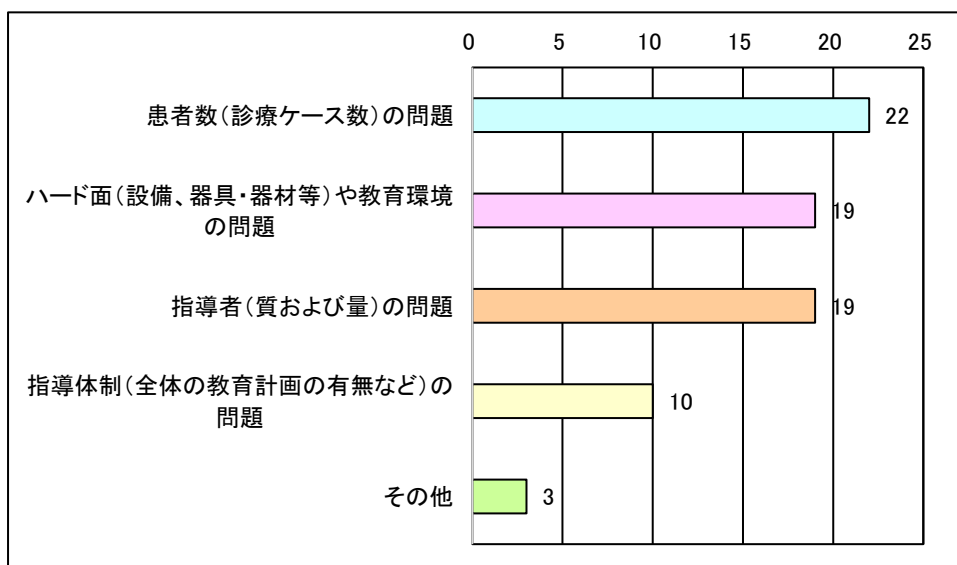
回答内容	回答数
医療安全・感染防止・コンプライアンスの講習会	5
Post-CC PX 関連の講演会、WS	4
FD 委員会主催の講演会	2
参加型臨床実習に関する説明会・WS	2
臨床技能に関するWS	1
コーチング研修	1
臨床実習指導歯科医講習会	1
臨床実習終了時の振り返りFD	1
医歯薬合同セミナー	1
在宅・訪問介護歯科診療シンポジウム	1
死生学・認知症	1
臨床教育委員会による指導方法のFD(月1回)	1

5-H. 「働き方改革」における教員の勤務時間の制約が診療参加型臨床実習での実施に影響を及ぼしていますか



回答内容	回答数
強く及ぼしている	5
やや及ぼしている	16
及ぼしていない	8

5-I. コロナ禍になる以前において、診療参加型臨床実習実施上で貴学で抱えている問題点はどれですか (複数回答可)



回答内容	回答数
①患者数(診療ケース数)の問題	22
②ハード面(設備、器具・器材等)や教育環境の問題	19
③指導者(質および量)の問題	19
④指導体制(全体の教育計画の有無など)の問題	10
⑤その他	3

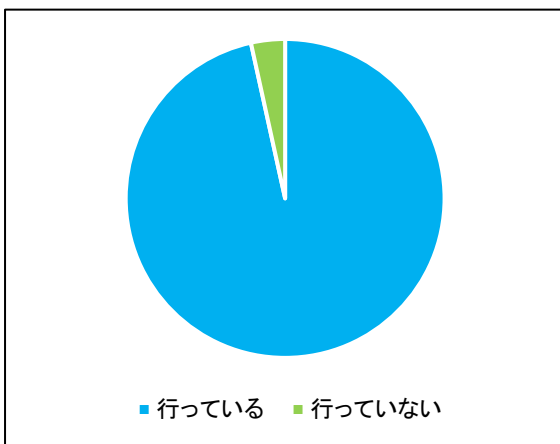
⑤具体的な内容

回答内容	回答数
学生専用歯科ユニットがない	1
臨床実習期間中に国試対策が十分行えないこと	1
自験のケースが不足しがちである	1
日々の学生の評価を行うにあたってコアカリの臨床実習の分類は使いにくい	1
臨床実施中に体調不良で実習を継続できなくなった学生の復帰プランについて	1

【問6 学生の国際交流への影響】

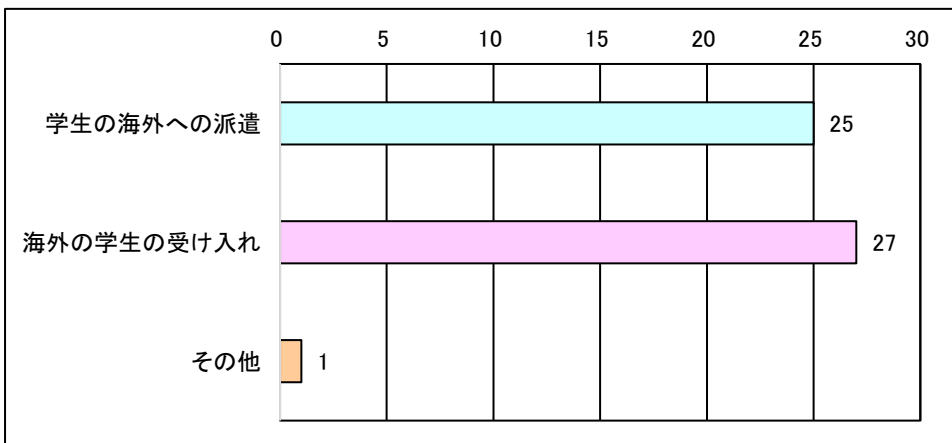
6-A. 学生の国際交流の機会

1) 貴学では学生の国際交流を行っていますか



回答内容	回答数
行っている	28
行っていない	1

2) 1)で「行っている」と回答した場合、具体的にはどのような内容ですか



回答内容	回答数
①学生の海外への派遣	25
②海外の学生の受け入れ	27
③その他	1

③具体的な内容

回答内容	回答数
協定校間での学生の派遣先と受け入れ先での見学	1
協定校間での学生の派遣先と受け入れ先での体験学修	1
協定校間での学生の派遣先と受け入れ先での英語での発表	1

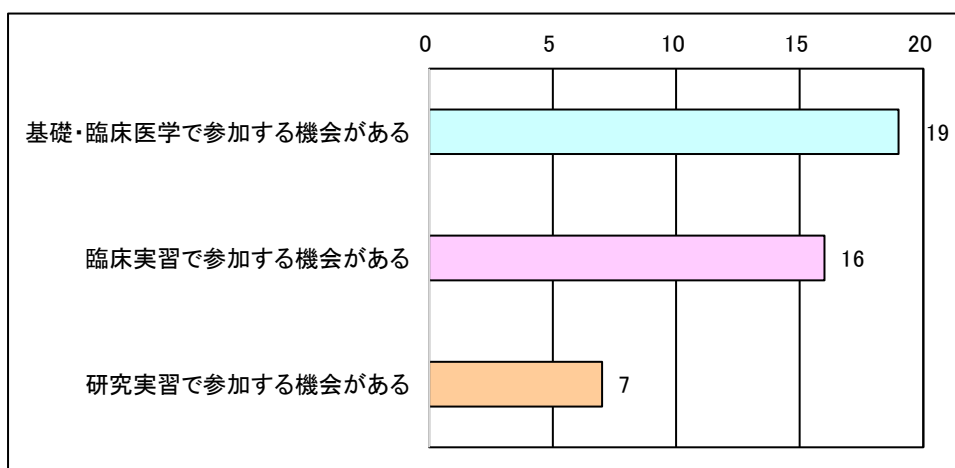
3) 1)で「行っている」と回答した場合、平成28年度改訂版コアカリが導入されたことによって、どのような変化がありましたか

回答内容	回答数
専門科目として国際交流科目を設置	2
派遣する大学数を増やした	1
海外の大学のカリキュラム情報を交換し、自学のカリキュラムを見つめ直した	1
海外との交流件数が増加	1

6-B. 学生の海外での学修

6-A 2)で「学生の海外への派遣」と回答した場合、

1)学生の海外での学修の機会は(複数回答可)



回答内容	回答数
基礎・臨床医学で参加する機会がある	19
臨床実習で参加する機会がある	16
研究実習で参加する機会がある	7

2)そのプログラム名は

回答内容	回答数
交際交流プログラム	2
国際歯学演習・歯学国際交流演習	2
短期海外研修派遣プログラム・留学制度	2
海外臨床実習	2
学生研修派遣プログラム	1
学生短期海外研修	1
学部学生海外研修奨励賞による派遣	1
台湾全国歯科学生技能コンテスト	1
姉妹校交換留学制度	1
姉妹校交換学生プログラム	1
グローバルリーダー育成プログラム	1
奨励海外派遣研修制度	1
海外研修	1
Student Abroad Program	1
Elective Study	1
International Exchange Program	1
カンボジア歯科医療支援プログラム	1
SV プログラム	1
Start プログラム	1

3)その対象学年と訪問期間は

対象学年

回答内容	回答数
5年生	5
6年生	5
1～5年生	3
1～6年生	2
3～4年生	2
4～5年生	2
3年生	1
4年生	1
2～6年生	1

訪問期間

回答内容	回答数
2週間	5
夏休み	5
春休み	3
1週間	3
1～2週間	3
10日	2
30日	2
数週間～半年以上	1
2ヶ月	1

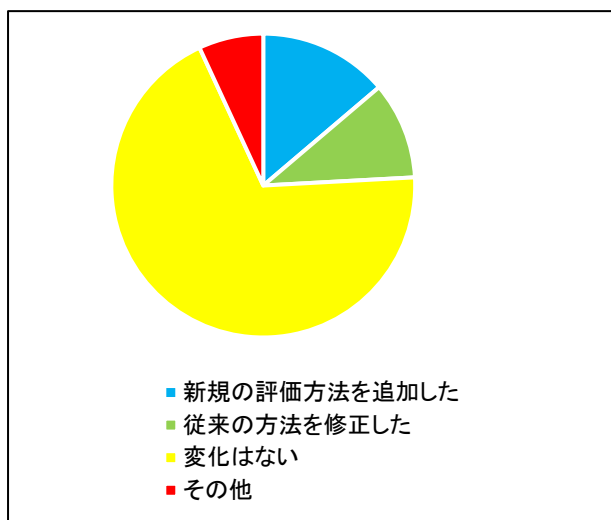
4)その担当分野または担当組織は

回答内容	回答数
国際交流センター(国際交流センター、国際連携推進センター)	6
国際交流委員会(国際交流委員会、学部学生国際相互交流担当実施委員会)	5
国際交流室(国際連携推進室、歯学教育開発室、国際交流室)	4
教務課、学生部、教務部	4
交際交流委員会以外の委員会(学務委員会、教務委員会、学生部委員会)	4
国際交流部会(国際研修実施部会、国際交流担当部会)	2
国際交流部、国際歯科部	2
歯学イノベーションリエゾンセンター国際連携推進部門	1
国際連携開発分野	1
Office of Global Health	1

【問7 学生の学修評価への影響】

7-A. 評価法全般

平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、評価方法全般にどのような変化がありましたか

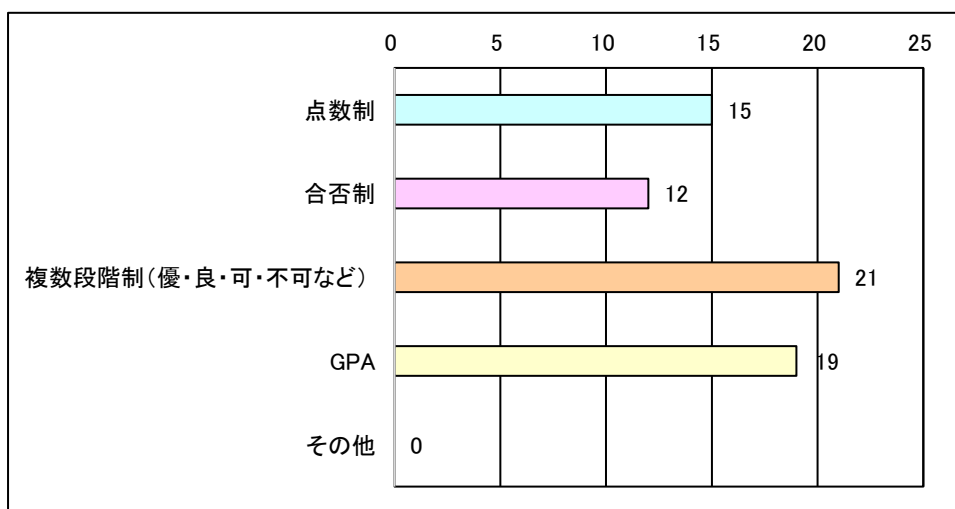


回答内容	回答数
①新規の評価方法を追加した	4
②従来の方法を修正した	3
③変化はない	20
④その他	2

④具体的に

回答内容	回答数
進級試験の出題基準を平成 28 年度版コアカリに準拠した	1
現在学習評価アンケートにて評価を収集中	1

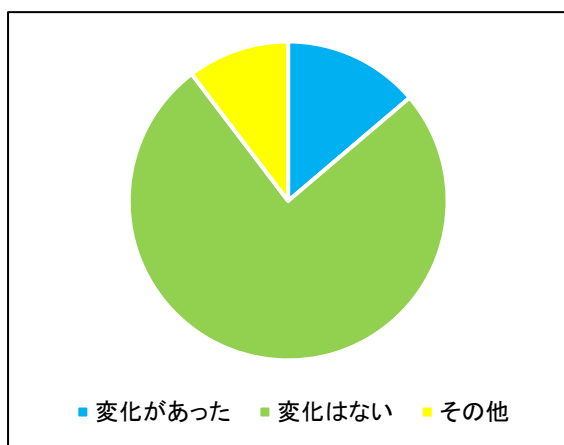
7-B. 成績の記録法は(複数回答可)



回答内容	回答数
点数制	15
合否制	12
複数段階制(優・良・可・不可、A・B・C・D など)	21
GPA	19
その他	0

7-C. 共用試験 CBT の取扱い

平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、共用試験 CBT の進級判定等における取扱いに変化がありましたか



回答内容	回答数
①変化があった	4
②変化はない	22
③その他	3

①具体的に

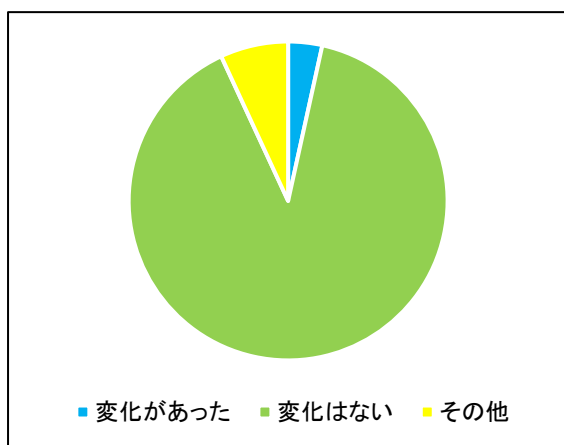
回答内容	回答数
合格基準点数 IRT の導入	2
合格基準点数 IRT の変更	1
登院資格試験としての位置づけを明確化し、進級判定基準を変更	1

③具体的に

回答内容	回答数
平成 31 年度より合格基準として IRT 標準スコアを導入	1
合格基準の引き上げ	1
今後、変化する可能性がある	1

7-D. 共用試験 OSCE の取扱い

平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、共用試験 OSCE の進級判定等における取扱いに変化がありましたか



回答内容	回答数
①変化があった	1
②変化はない	26
③その他	2

① 具体的に

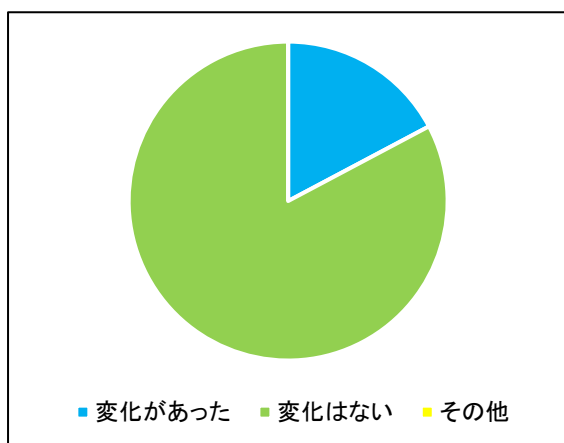
回答内容	回答数
ポリクリの内容を OSCE 教育に一部導入	1
臨床基礎実習として単位化、進級判定基準に加えた	1

③ 具体的に

回答内容	回答数
今後、変化する可能性がある	1
合格基準の引き上げ	1

7-E. 臨床実習終了時の臨床能力評価

平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、臨床実習終了時の能力評価の進級判定等における取扱いに変化がありましたか



回答内容	回答数
①変化があった	5
②変化はない	24
③その他	0

①具体的に

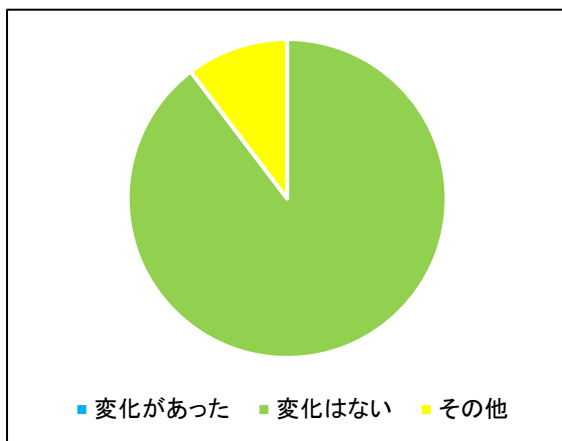
回答内容	回答数
臨床能力試験の正式実施	3
修了認定試験の内容や方式の改訂	1
各科の自験を含めたミニマム・リクアイアメントや評価方法の整備	1
臨床実習のポイント制を変更とポイント取得による進級判定の導入	1

③ 具体的に

回答内容	回答数
今後、変化する可能性がある	1
平成 28 年度改訂版のG項目の「Ⅰ指導者のもの実践するとⅡ指導者のもとでの実践が望まれる」を参考に自験を行うようにしている	1

7-F. 卒業判定時の学力評価

平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、卒業判定のための学力評価(知識)の取扱いに変化がありましたか



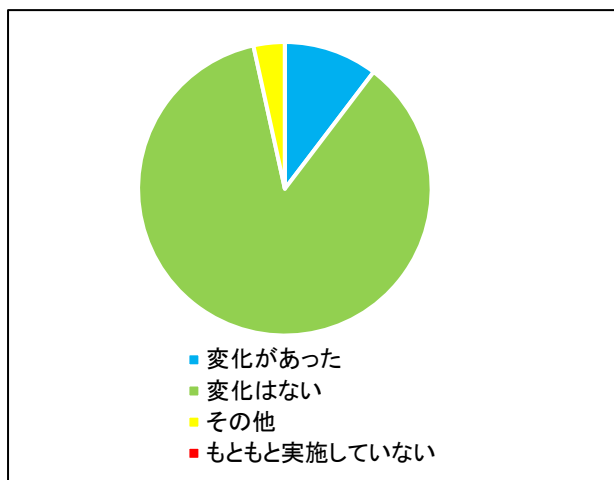
回答内容	回答数
①変化があった	0
②変化はない	26
③その他	3

③具体的に

回答内容	回答数
今後、変化する可能性がある	1
コンピテンシー評価(学修アウトカムの評価)を組み込むように計画	1
合格基準の引き上げ	1

【問8 授業評価方法等への影響】

8-A. 学生による授業評価



回答内容	回答数
①変化があった	3
②変化はない	25
③その他	1
④もともと実施していない	0

①具体的に

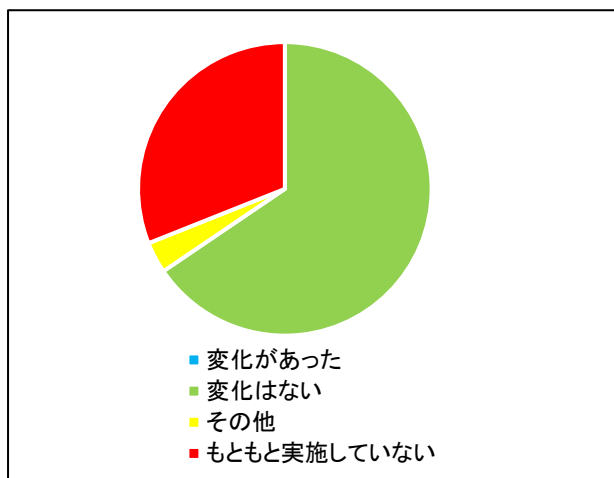
回答内容	回答数
ポートフォリオ等の導入	1
学生アンケートを用いての評価	1
評価項目の増加	1

③具体的に

回答内容	回答数
平成 31 年度より授業アンケート取得方法を変更	1

8-B. 同僚による授業評価

平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、同僚による授業評価方法に変化がありましたか



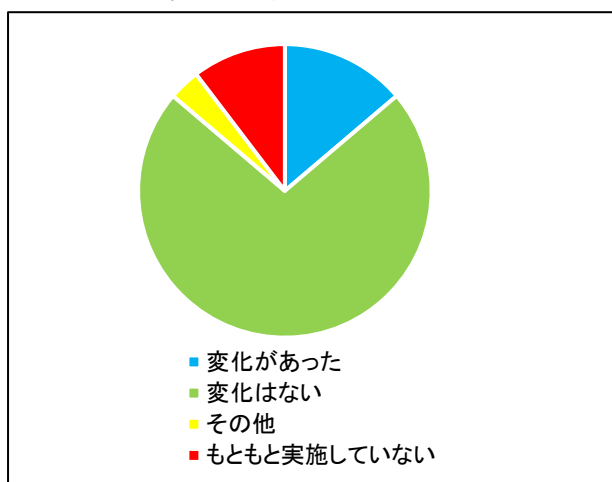
回答内容	回答数
変化があった	0
変化はない	19
その他	1
もともと実施していない	9

③具体的に

回答内容	回答数
教員相互の授業参観によるフィードバックの導入	1

8-C. 歯科大学・歯学部による科目評価(プログラム評価)

平成 28 年度改訂版コアカリが導入されたことによって、歯科大学・歯学部としての科目評価(プログラム評価)方法に変化がありましたか



回答内容	回答数
①変化があった	4
②変化はない	21
③その他	1
④もともと実施していない	3

①具体的に

回答内容	回答数
平成 28 年度改訂版コアカリに準じて科目評価を実施した	2
ポートフォリオ等の導入	1
コアカリの教育内容と大学独自のカリキュラムの教育内容を明示した学科課程表による学習到達度の活用	1

③具体的に

回答内容	回答数
歯学部教育委員会が中心となり、歯学部全体のプログラム評価を行う	1